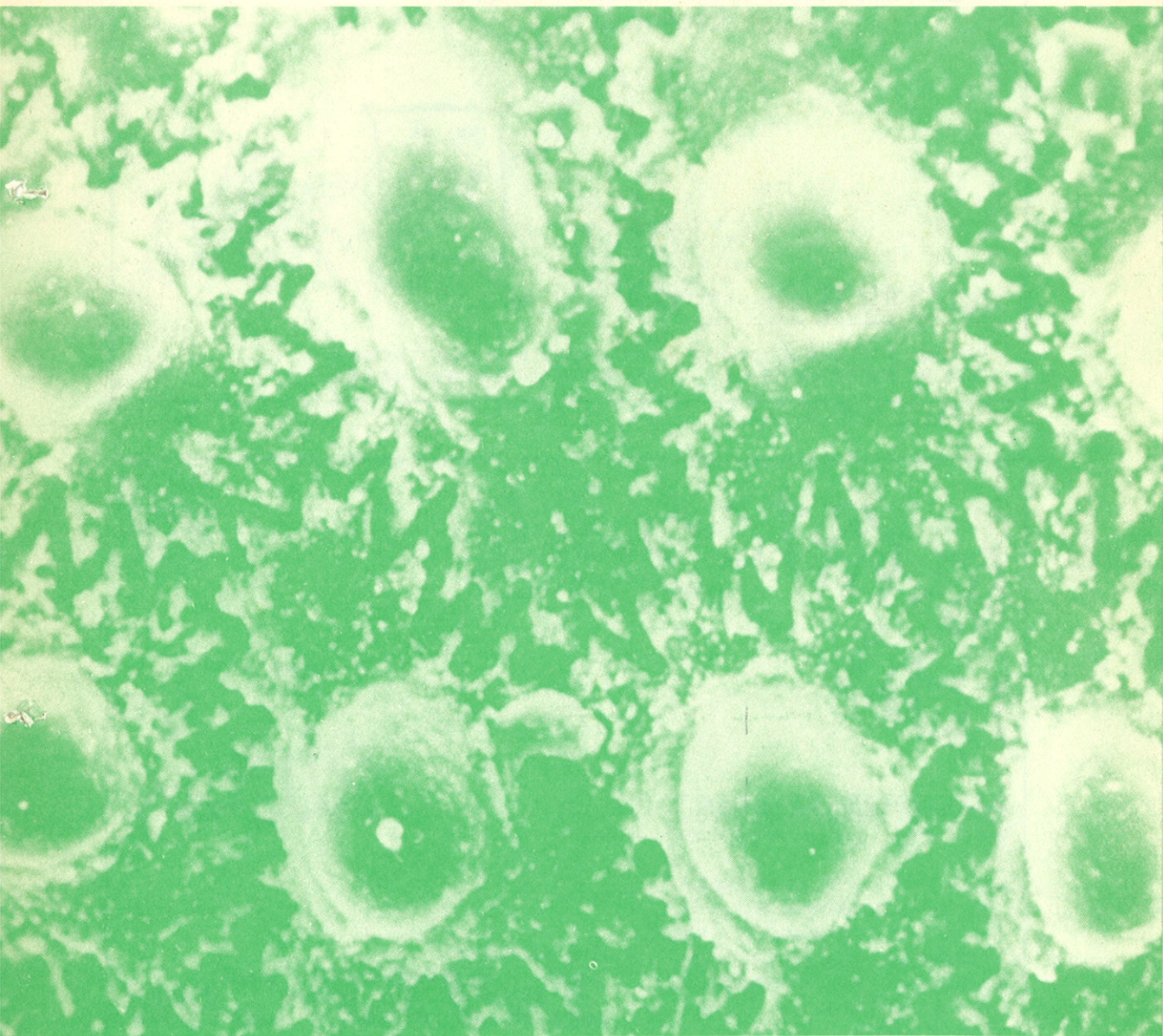


植調

第14巻第12号



ケフシグロ種子表皮細胞

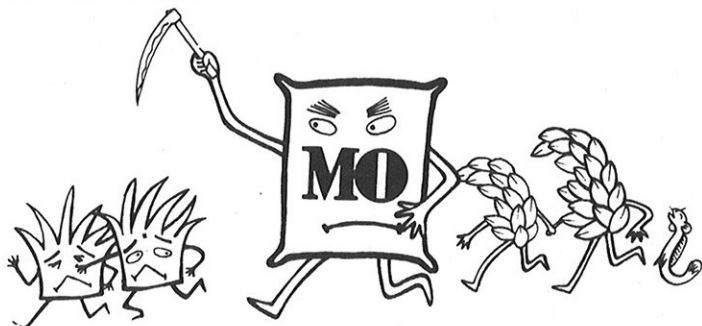
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤-9

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内

余裕たっぷり なが

まだ効いてる、まだ...そんな形容がピッタリ。一時おさえでなく、じっくりおさえつけて中期除草にバトンタッチ!



い 効きめ。

機械移植栽培に最適な水田初期除草剤

- 効きめが長く、すばらしい殺草力を発揮します。
- ノビエ、カヤツリグサ、1年生広葉雑草からマツバイまで広範な雑草に有効で、ウリカワやホタルイやクログワイなどにも初期抑草効果の高いことが認められています。
- 抑草期間を長く要求される機械移植栽培において大きな力となり、しかもイネに対して安全です。
- 人畜毒性、魚毒性ともきわめて低く、安心して使えます。

代かき後7日以内にご使用ください!

水田初期除草剤

エックスゴーニ[®]粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標です

エックスゴーニ協議会



石原産業株式会社
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

年 間 使 用 量

現在、我が国における下水スラッジの発生量は年間 500 万トン程度と推定されるが、その処理法の一つとして肥料化が推進され、約10%が農業で消化されている。このスラッジ肥料は、肥料取締法の基準には適合するが、かなり高濃度の重金属を含有している場合が多い。従って、有機質肥料の標準的な使用量程度であれば問題は少ないが、現状はその数倍から数十倍に及ぶ量を、廃棄物処理のセンスで耕地に使用していることが多く、不安が大きい。

一方、野菜の年数回にわたる周年栽培やハウス栽培等では、同一耕地に散布される農薬（除草剤を含む）の量も相当多量になっている。この多量散布については、国内だけに限らない。東南アジアで聞いたある大学教授の話であるが、その地方の栽培野菜は、「農薬で真白くなるほど散布量が多く、恐ろしいので、自家菜園を作っている」とのことであった。

これらのことから、人体に有害な、集積型の成分を含有する肥料・農薬では、その成分含有量の規制の外に、単位面積に対する年間使用量の基準を配慮する必要があるように思われる。特に、都市下水や産業廃棄物を材料とする土改剤でその感が深い。農薬では、一作期間内の使用回数や使用時期等が示されているが、年間使用量の基準も欲しい。

最近、ミカンの減酸・増糖のため、登録失効の硫酸鉛を探している団体のあることも聞いたが、ユーザーにおいては、法の柔軟さに甘えることなく、長期的見地に立って、良心的対応をすることが強く望まれる。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事・九州支部長 井上利志栄〕

目 次 (第14巻第12号)

昭和55年度転作(大豆)関係除草剤試験成績概要	2
-------------------------	---

＜九州農業試験場 高林 実＞

1. 供試除草剤と試験実施場所	2
2. 供試除草剤の試験成績	3

昭和55年度畑作マルチ資材試験成績概要	7
---------------------	---

＜東北農業試験場 加藤明治＞

1. 光崩壊性マルチフィルムの適用性	7
2. 寒冷地におけるマルチ栽培の安定化に関する試験	9

昭和55年度水稻作関係除草剤試験成績概要	11
----------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和55年度畑作関係除草剤試験成績概要	44
---------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和55年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績概要	53
--------------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550 倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕

昭和55年度転作(大豆)関係 除草剤試験成績概要

農林水産省九州農業試験場作物第一部 高林 実

昭和53年の大規模な水田転作の実施にともない、水田転作大豆の除草剤試験が昭和53年から開始され、本年は3年目にあたる。

その試験成績検討は、昭和55年12月11日に国鉄労働会館（東京都千代田区丸の内1-11-4）で行なわれ、関係の専門委員、担当県をはじめ多くの県の研究者および関係メーカー等多数が参加した。

1. 供試除草剤と試験実施場所

供試除草剤とその処理法については、第1表に示すとおりであり、3年間試験されたものが3種類、2年間試験されたものが5種類、新しく試験されたものが6種類である。なお、前年と同様に、体系処理での試験が多く行なわれた。試験実施場所と試験条件の概要は、第2表のとおりである。試験は8場所が3年目、3場所

が2年目であるが、4場所が転換初年目の水田、4場所が転換2年目の水田、3場所が転換3年目の水田を用いている。供試圃場の土壌は、福島(火山灰土)、大分(洪積層)を除いて、沖積層である。

大豆の播種期は、地域によって生態型の異なる大豆が供試されているために、5月中旬から7月下旬までの幅

第1表 供試除草剤と処理法

除 草 剤 名 (有効成分含有率)	処 理 法	使 用 量 (製品a当たり)	備 考
③ CG-119 乳剤 (50%)	播種直後～出芽前土壌処理	20, 30, 40 ml	
③ B-3015・P 粒剤 (8+0.8%)	"	400, 500, 600 g	
② トリフルラリン乳剤(44.5%) +リニュロン水和剤(50%) (現地混用)	"	15ml+15g, 20+10, 20+15 又は 25+15	
② トリフルラリン乳剤(44.5%) +プロメトリン水和剤(50%) (現地混用)	"	20ml+10g, 20+15, 25+10, 25+15	1区NP-48との体系処理
① G-315 水和剤(50%)	"	10, 15, 20 g	"
② SSH-55 乳剤(30%)	"	40, 50, 60 ml	"
① NK-412 水和剤(50%)	"	20, 30, 40 ml	
① K-503 水和剤(50%)	"	10, 20, 30 g	
② RH-62 乳剤(20%)	"	50, 75, 100 ml	1区NP-48との体系処理
① トリフルラリン粒剤(2.5%)	"	400, 500, 600 g	"
③ NP-48(Na)水溶剤(75%)	生育期茎葉処理	10, 15 g	リニュロンとの体系処理
① NP-55 乳剤(20%)	"	15, 20 g	"
② SL-236 乳剤(35%)	"	10, 15, 20 ml	"
① BI-883 乳剤(50%)	"	10, 15 ml	B-3015・Pとの体系処理

備考) ③試験3年目、②試験2年目、①試験初年目。

第2表 試験実施場所と試験条件

場 所	転 換 年 次	土質・土性	播種期	土壌処理時の 土壌の状態	主 な 発 生 雑 草
北海道 ・中央	3年目	沖積・埴壌土	月 日 5. 12	播種直後: 適湿 出芽前: 乾	ノボロギク, イヌホオズキ, ノビエ
宮 城	3年目	沖積・黒泥強 粘土	6. 5	適 湿	ノビエ, メヒシバ, カヤツリグサ
秋 田	初年目	沖積・埴土	6. 3	乾	ノビエ, アカザ ※
福 島	2年目	火山灰土	6. 10	適 湿	メヒシバ, タデ類, イヌビユ
石 川	初年目	沖積・埴壌土	5. 21	乾 (翌日, 翌々 日雨あり)	ノボロギク, タデ類, タネツケバナ
埼 玉	初年目	沖積・埴土	7. 1	適 湿	ノビエ, ノミノフスマ, カヤツリグサ
長 野	3年目	沖積・埴土	7. 2	適 湿	ノビエ, メヒシバ, スベリヒユ ※
三 重	2年目	沖積・埴土	7. 21	やや乾	ノビエ, メヒシバ, カヤツリグサ ※
兵 庫	初年目	沖積・埴土	6. 17	湿	ノビエ, タカサブロウ, カヤツリグサ
福 岡	2年目	沖積・砂埴土	7. 17	適 湿	ノビエ, カヤツリグサ
大 分	2年目	洪積・埴壌土	7. 23	やや乾	ノビエ, メヒシバ, アメリカセンダングサ

※ 雑草種子(ノビエ)播種.

があり、北海道・東北・北陸で早く、九州で遅くなっている。土壌処理時の土壌水分は、全体的に適湿ないしやや乾であり、生育初期は良好な条件で試験が行なわれたものと考えられる。

発生雑草はノビエ優占の場合が最も多く、転換2～3年目にはメヒシバも優占化し、全般的にはイネ科雑草主体の群落である。発生雑草の転換後の年次による変化は、前述したように試験年次と転換年次とがかならずしも一致せず、一部の場所ではノビエ種子を散布していることもあり、その変化はつかみ難い。しかしながら、北海道中央では、転換1～2年目はノビエが優占化したが、3年目にはノボロギク、イヌホオズキが優占化し、転換後の年次の経過にともない、畑雑草化することがうかがえた。また、キク科のノボロギクが2場所、タカサブロウが1場所で優占化しており、キク科雑草に効果のある除草剤の開発の必要性が示唆された。

2. 供試除草剤の試験成績

(1) CG-119

乳剤

ノボロギク
等の広葉雑草
が優占化した
北海道中央・
石川を除いて
は、高い除草
効果を示した。
大豆に対し
ては、福岡で
若干の出芽抑
制、長野で若
干の生育抑制
が認められた

ものの収量には影響がなく、他の場所では薬害は全く認められなかった。

過去2カ年の結果をも考慮に入れて、本剤はイネ科雑草優占の転換畑で実用化可能と認められた。

(2) B-3015・P粒剤

北海道中央・長野では効果の年次変動があり、石川では全般に効果が劣った。その他の場所では、ほぼ期待通りの効果を示した。

福岡で若干生育抑制がみられたものの、収量には影響がなく、他場所では全く薬害は認められなかった。

過去2カ年の結果をも考慮に入れて、本剤は寒冷地以南で実用化可能と認められた。

(3) トリフルラリン乳剤+リニュロン水和剤

(現地混用)

除草効果は前年と同様、全般的に大きかった。

大豆におよぼす影響は、福岡で軽微な生育抑制がみられたが、そのほかの場所では薬害が認められなかった。

第3表 供試除草剤の場所別試験結果の要約

除 草 剤 名	項 目	北海道 中 央	宮 城	秋 田	福 島	石 川	埼 玉	長 野	三 重	兵 庫	福 岡	大 分
CG-119 乳剤	A	無	大	極 大	大～極大	小～中		極 大	極 大	大～極大	大～極大	大～極大
	B	無	無	無	無	無		無～極微	無	無	無～微	無
	C	D	A ₀	A ₀	A ₂ ～A ₀	C ₂ B ₂ A ₂		A ₀	A ₀	A ₂ ～A ₀	A ₂ ～A ₀	A ₂ ～A ₀
	D	継	実・継	実・継	実・継	実・継		実	実	実	実・継	継
B-3015・P 粒剤	A	無	中～極大	中～大	極 大	小～中		小～中		中	大	
	B	無	無	無	無	無		無		無	無～微	
	C	D	B ₂ A ₂ A ₀	B ₂ ～A ₂	A ₀	C ₂ ～B ₂		C ₂ ～B ₂		B ₂ ～A ₂	A ₂	
	D	実・継	実	継	継 (初年目)	継		継		継	実・継	
トリフルラリン乳剤 +リニユロン水和剤 (現地混用)	A		極 大	中～大	大～極大	中～大		極 大	中	中～大	大	中～極大
	B		無	無	無	無		無	無	無	無～微	無
	C		A ₀	B ₂ ～A ₂	A ₂ ～A ₀	B ₂ ～A ₂		A ₀	B ₂	B ₂ ～A ₂	A ₂	B ₂ ～A ₀
	D		実	継	実	継, 実・継		実	実・継	継	実・継	実・継
トリフルラリン乳剤 +プロメトリン水和剤 (現地混用) (1区体系処理)	A				極 大	中		極 大	中			中～大
	B				無	無		無～極微	無			無
	C				A ₀	B ₂		A ₀	B ₂			B ₂ ～A ₂
	D				実	継		実・継	実・継			実・継
G-315 水和剤 (1区体系処理)	A				極 大				中			極 大
	B				無				無			微～小
	C				A ₀				B ₂			A ₁
	D				実・継				実・継			継
SSH-55 乳剤 (1区体系処理)	A				極 大	小～中		大～極大	中			中
	B				無	無		無	無			無
	C				A ₀	C ₂ ～B ₂		A ₂ ～A ₀	B ₂			A ₂
	D				継	継		継	継			継
NK-412 水和剤	A				極 大				小～中			小～中
	B				微～中				無			微～中
	C				A ₀				C ₂ ～B ₂			C ₂ ～C ₀
	D				継				継			継
K-503 水和剤	A								中			無～中
	B								微～小			微
	C								B ₂			D～C ₂
	D								継			継
RH-62 乳剤 (1区体系処理)	A			大				極 大		大～極大		
	B			無				無～極微		無		
	C			A ₂				A ₀		A ₂ ～A ₀		
	D			継 (50g)				実・継		実・継		

除 草 剤 名	項 目	北海道 中 央	宮 城	秋 田	福 島	石 川	埼 玉	長 野	三 重	兵 庫	福 岡	大 分
トリフルラリン粒剤 (1区体系処理)	A	無		極 大								
	B	無		無								
	C	D		A ₀								
	D	継		実・継								
NP-48(Na) 水溶剤 〔リニュロンと の体系処理〕	A	大	大				極 大			極 大		
	B	微～小	無				無			無		
	C	A ₂	A ₀				A ₀			A ₀		
	D	実・継	実				実			実		
NP-55乳剤 〔リニュロンと の体系処理〕	A		大～極大				極 大			極 大	極 大	
	B		無				無			無	無	
	C		・A ₀				A ₀			A ₀	A ₀	
	D		実・継				実・継			実・継	実・継	
SL-236乳剤 〔リニュロンと の体系処理〕	A	中～大	大	極 大		無(極大)	極 大	極 大		極 大	極 大	
	B	小	無	無		無	無	無～極微		無	無～小	
	C	C ₀ ～A ₃	A ₀	A ₀		D(A ₀)	A ₀	A ₀		A ₀	B ₀ ～A ₀	
	D	実・継	実・継	実		実・継 (イネ科)	実・継	実		実	実・継	
BI-883乳剤 〔B-3015・Pと の体系処理〕	A	中～極大	大	極 大		無～小 (極大)	中(極大)	極 大	極 大	大～極大	大	極 大
	B	微～小	小	無		無	無	微～小	無	無	無～微	無
	C	B ₂ ～A ₂	A ₀	A ₀		D～C ₂ (A ₀)	A ₀	A ₁ ～A ₀	A ₀	A ₂ ～A ₀	A ₂	A ₀
	D	継	継	継		実・継 (イネ科)	実・継 (イネ科)	実・継	実・継	実・継	実・継	継

注1) 項目については、A：除草効果、B：薬害、C：総合評点、D：実用性の判定。

注2) 体系処理については、1区だけ体系処理した場合には単用の除草効果、全体が体系処理となっている場合には体系処理の除草効果で示した。

これらの結果から、両剤の混合散布は転換畑で実用化可能と認められた。

(4) トリフルラリン乳剤+プロメトリン水和剤 (現地混用)

イネ科雑草に対しては全般に高い除草効果を示したが、一部の場所で広葉雑草に効果が劣った。

大豆におよぼす影響は、各試験場所とも認められなかった。

これらの結果から、本剤は有望と認められるが、広葉雑草に効果が不十分な例もあり、薬量増による検討が必要である。

(5) G-315水和剤

3場所で試験が実施され、除草効果は三重でタカサブロウに劣ったが、全体としては極めて大きかった。大豆におよぼす影響は、3場所とも認められなかった。

これらの結果から、本剤は草種によって効果に変動がみられるものの、全般的に除草効果が大きく、薬害もなく、有望であり、場所数をふやしての検討が望まれる。

(6) SSH-55乳剤(成分未公開)

イネ科雑草に対しては全般に高い除草効果を示したが、一部の場所で広葉雑草、とくにタカサブロウに効果が劣った。

大豆におよぼす影響は、各試験場所とも認め

られなかった。

これらの結果から、本剤は草種によって効果に変動がみられるものの、薬害もなく、広葉雑草に対する効果向上の検討が必要である。

(7) NK-412 水和剤 (成分未公開)

3 場所で試験が実施され、1 場所では高い除草効果を示したが、2 場所では効果が不十分であった。また、2 場所で大豆葉に白斑が生じた。

以上の結果から、除草効果・薬害の両面につき検討が必要である。

(8) K-503 水和剤 (成分未公開)

2 場所で試験が実施されたが、除草効果は対象とした広葉雑草、とくにタカサブロウに劣った。また、2 場所とも大豆葉にクロロシスが生じた。

除草効果・薬害の両面につき、再検討が必要である。

(9) RH-62 乳剤

3 場所で試験が実施され、除草効果は1 場所でノビエにややあまいとの指摘もあるが(50g)、全般的にはきわめて高かった。

大豆に対する影響は、1 場所の 100g 処理でわずかに生育抑制がみられたのみで、他場所では薬害はなかった。

本薬剤は昭和53年にも試験され、有望視された。本年は成分も公開され、畑作でも試験が始められ、さらに試験点数をふやしての実用化が期待される。

(10) トリフルラリン粒剤

2 場所で試験が実施された。北海道中央では

転換3年目の圃場でノボロギク等の広葉雑草が優占化したため、ノビエには効果が高かったものの、全体としては効果が劣った。ノビエの優占した秋田では、きわめて高い効果を示した。また、薬害は2場所とも認められなかった。

本剤は、一般畑作の大豆作において寒冷地以南で実用化の判定を受けている。したがって、実用化できるが、転換畑の土壌条件が普通畑作と違うことから、今後さらに試験点数をふやしての検討が望まれる。

(11) NP-48 (Na) 水溶剤

過去2カ年の結果と同様、除草効果はイネ科雑草を対象にきわめて高く、薬害も北海道中央の葉枯れ(微~小)以外には認められなかった。したがって、イネ科雑草対象の茎葉処理剤として実用化可能である。

(12) NP-55 乳剤

NP-48と同様に、リニュロンとの体系処理で実施され、転換畑では初年目の試験である。除草効果はイネ科雑草を対象にきわめて高く、薬害も全く認められなかった。

本剤は、本年一般畑作の大豆作において寒冷地以南で実用化の判定を受けた。したがって、転換畑では初年目であるが、実用化可能である。

(13) SL-236 乳剤

リニュロンとの体系処理で実施され、除草効果は前年度と同様、イネ科雑草に対しては全場所できわめて高かった。

大豆におよぼす影響は、北海道中央および福岡でクロロシス、生育抑制がみられたが、その

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤・生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20~30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。

程度は小さかった。そのほかの場所では、ほとんど葉害がみられなかった。

本剤は、本年一般畑作の大豆作において、寒冷地以南で実用化の判定を受けた。したがって、転換畑においても、実用化可能と判断される。

(14) B I - 883 乳剤

ベンチオカーブ・プロメトリンの播種後土壌処理との体系処理で実施され、除草効果はイネ科雑草対象に全場所できわめて高かった。

大豆におよぼす影響は、北海道中央・宮城・長野で褐変葉もしくは葉先枯れがみられたが、その程度は小さかった。そのほかの場所では、ほとんど葉害はみられなかった。

本剤は、本年一般畑作の大豆作において、寒冷地で実用化の判定を受けた。したがって、転換畑では初年目であるが、寒冷地で実用化可能である。また、他地域についての適用拡大が期待される。

昭和55年度畑作マルチ資材 試験成績概要

農林水産省東北農業試験場農業技術部 加藤明治

昭和55年度畑作マルチ資材試験成績の検討会は、夏作関係生育調節剤試験成績検討会の一部門として、昭和55年12月12日、国鉄労働会館(東京都千代田区丸の内1-11-4)において開催された。

その試験成績の概要および検討結果は、以下の通りである。

なお、本年度報告された供試資材および試験実施場所は、第1表の通りである。

1. 光崩壊性マルチフィルムの適用性

千葉県・大分県などの暖地、温暖地における落花生に対するマルチの有効期間は開花初期までとされ、この時期にフィルムを除去することが望ましいとしている。すなわち、播種後45～60日で崩壊し(千葉)、子房柄の地下侵入を容易にし、労力を多く要するフィルム除去作業の解消などから光崩壊性マルチフィルムに対する

期待は大きい。

昭和55年度は落花生を対象にSPDフィルム(4場所)、ロポフィルム(1場所)の2種類の適用性が検討された。

(1) SPDフィルム(以下SPDと略称)

千葉農試では、落花生作(5月6日フィルム被覆、同播種)を対象に、SPD-1、SPD-7の試験を実施した。SPD-1は、被覆後27日目に崩壊を始め、34日目で90%、55日目で100%崩壊した。SPD-7は、25日目で崩壊を始め、34日目で90%、55日目で100%崩壊した。開花期・主茎長・総分枝数は、慣行のポリフィルムに比べ大差は認められなかったが、崩壊がやや早すぎ、子実重は10～20%低下した。

茨城農試でも落花生作(5月15日被覆、同日播種)を対象にSPD-1、SPD-7の試験を実施した。両区とも被覆後14日で崩壊を始め、33日目(6月17日)には全面的に崩壊し、両区の

第1表 供試資材および検討結果の要約

資 材 名	有効成分および含有率	委 託 会社名	試 験 の ね ら い	試験場所	今回の判定	判定理由・内容・その他
1. SPDフィルム ○易処理性マルチフィルム	・無機系充填ポリエチレン光崩壊剤添加	日本ビ グメン ト	光崩壊性マルチフィルムが落花生の生育・収量におよぼす影響および後処理の容易性について。	茨城農試、千葉農試、大分農試、鹿児島農試大隅支場。	継	・地域、年次により崩壊時期に差があり、保温性も不十分な面もある。そのため、必要な条件を再検討し、崩壊性・保温性の関連を明らかにする。
2. ロボフィルム ○光崩壊性マルチフィルム	・無機物充填中低圧ポリエチレン：光崩壊剤添加	中央資 材	同 上	千葉農試。		
3. ユーラックマルチフィルム	・低密度ポリエチレン＋保温剤添加 プロメトリン 10g/フィルム 100m ²	マルチ 栽培研 究会	落花生・スイートコーン・さといも等の栽培における保温効果の差異が生育・収量におよぼす影響について。	東北農試、青森畑園試、岩手農試、岩手園試高冷地分場。	実・継 〔落花性：実 スイート コーン： 実・継 さといも： 実・継〕	・保温効果（最低地温の上昇）が認められ、出芽・初期生育を良好にする。 ・スイートコーン・さといもについてはさらに検討が必要。
4. 銀黒ダブルマルチ 白黒ダブルマルチ	・低密度ポリエチレン（二層構造）	マルチ 栽培研 究会	光線反射フィルムを用いて、小豆の生育・収量におよぼす影響およびアブラムシ忌避によるウイルス病の回避について。	岩手農試。	実・継	・保温効果（マルチ効果）は認められる。 ・アブラムシ忌避、ウイルス病回避についてはさらに検討が必要。
5. サッソースリットマルチ	・低密度ポリエチレン＋プロメトリン 8g/フィルム 100m ²	マルチ 栽培研 究会	マルチ資材の差異が落花生の生育・収量におよぼす影響について。	青森畑園試	実・継	・スリットによる誘引効果高く、増収効果が認められる。 ・スリット部門の強度、スリットの方法等の検討が必要。

間に崩壊性に差はみられなかった。地上部の生育は、ポリフィルム区と差は認められず、莢実重は、ポリフィルム区に比べ、SPD－1が9％の減収がみられたが、SPD－7はポリフィルム45日除去区と同様4％の減収にとどまった。

大分農業技術センターでは、SPD－8を供試し、落花生作（5月10日被覆、12日播種）で

実施した。被覆後21日目から崩壊を始め、約2週間で100％崩壊した。崩壊した時期は、開花始より約10日も早かったため、収量は普通フィルムに比べ10％減少した。

鹿児島農試大隅支場では、SPD－7、SPD－8を供試し、落花生作（4月21日被覆、同日播種）で実施した。フィルムの崩壊始はSPD

SPD-7で16日目、SPD-8では18日目と大差なかったが、SPD-7が23日目で50～60%崩壊（保温効果がなくなる）となり、50日目で90%、SPD-8は32日目で50%の崩壊と比較的ゆっくり進み、50日で80%程度となり、両者とも最終的に95%の崩壊であった。ポリフィルムに比べ、開花期は4～5日遅くなり、収量もSPD-7で21%、SPD-8で13%の減収となった。

以上4場所で、SPD-1、SPD-7、SPD-8について検討した結果を総合すると次の通りである。①地域により崩壊時期に差がある。②全体に崩壊が早すぎ、保温効果が不十分である。③そのため、開花がやや遅れ、10～20%の減収となった。④なお、飛散・埋没部門の残渣などの問題も残されている。などの点から、これを実用するのは困難と判断され、さらに継続検討が望まれる。

(2) ロボフィルム（以下ロボと略称）

千葉農試では、SPDフィルムと同様、落花生を対象にロボB-30、ロボB-70の検討を行なった。ロボB-30は、32日目に崩壊始めとなり、55日目で90%、59日目で95%崩壊した。ロボB-70は、24日目で崩壊始めになり、59日目に100%崩壊した。開花期・主茎長・総分枝数などは、ポリフィルムに比べ大差は認められなかった。しかし、収量は25～17%の減収となった。

このように、ロボB-30の崩壊性は本年の気象下では理想的であったが、ロボB-70はやや遅すぎの傾向であった（54年は理想的な崩壊）。ただ、収量性に問題があり、さらに継続検討が望まれる。

以上のように光崩壊性フィルムは、地域により、年次により差を生じており、強度・収量性・崩壊時期などにも問題がある。

しかし、フィルム除去作業もなくなるとともに、子房柄の侵入も容易になり、さらに収穫作業も省力化できるなど、実用的フィルムの要望も強い。

故に、光崩壊性フィルムの必須条件、必要条件を再検討し、崩壊性・保温性と作物への影響を明らかにすることが必要と思われる。

このため、数年間この試験を実施した場所で条件を明らかにし、その条件に近いフィルムの開発、適用性試験が望まれる。

2. 寒冷地におけるマルチ栽培の安定化に関する試験

昭和55年の東北地域におけるマルチ栽培の試験は、北部畑作地帯の青森県・岩手県で実施された。この地帯における55年の気象条件は、5月中旬から6月下旬にかけて気温もかなり高く、日照時間も平年並であったが、その後異常低温となり、日照も6月下旬から9月上旬まで平年の $\frac{1}{2}$ 程度に経過するなど、例をみない冷害年であった。各畑作物も初期の生育は良好であったが、生育後半は生育も著しく影響され、落花生などでは病害の発生も多くみられた。

(1) ユーラックマルチフィルム（以下URACと略称）

1) 落花生

落花生マルチ栽培における保温性改良フィルム；URACの検討は、2場所で行なわれた。

岩手農試では、落花生の直播（5月12日播）移植（5月22日）について、透明フィルム（9215・P-8）との比較で実施した。地上部の生育ではその差は小さかったが、直播栽培における初期生育、移植栽培における生育中期などで、URAC区が優る効果が認められた。収穫時における完全莢数に対する効果は認められなかったが、

子実粒重が増加し、子実収量は直播栽培で12%、移植栽培で7%増収となった。

東北農試でも、播種・移植時期を変えて検討した（直播栽培：5月8日、16日、28日、6月7日、移植栽培：5月8日、28日）。URAC区は、サッソーホーリーフィルム区（9215・P-10）に比べ、最高地温ではやや劣る（0~-0.9℃）が、最低地温でやや優る（+0.2~+0.9℃程度）ことが認められた。その結果、URAC区は出芽率の向上（直播栽培）、地上部栄養体ならびに根の生育の増加および子房柄の土中への侵入・肥大の促進など、保温性改良の効果が認められた。

以上のように、URACフィルムの効果は必ずしも大きいものではないが、2カ年の結果から効果が確実に見込まれることが知られたので、気象的制約の大きい寒冷地の落花生マルチ栽培の多収、安定化に対して有効である“実用化できる”と判断された。

2) スイートコーン

岩手園試高冷地分場では、スイートコーンに対するURACフィルムを検討した（5月14日播）。URAC区は、サッソーフィルム区に比べ、発芽日数がやや早く、発芽率も高くなった。その後の生育は、異常気象の影響（低温、寡照）を受け、差は認められなかった。54年度は、収穫期が普通マルチ区より2日、無マルチ区より10日早まり、収量も15%増収したことなどから“実・継”の判定を行ない、標準年における効果の検討を継続する必要を認めた。

3) サ ト イ モ

青森畑園試では、URACフィルムのサトイモに対する効果を検討した（6月2日定植、品種は石川早生、土垂）。本年は冷害であったが、URAC区の保温効果が高く、両品種とも生育

が促進された。収量においても同様な効果があり、とくに石川早生ではまごいもの肥大がみられ、多収を示した。さといもについては、1年目であり、追肥・栽植様式などの検討を今後行なうこととして、“実・継”の判定を行なった。

(2) 銀黒ダブルマルチ、白黒ダブルマルチ

岩手農試では、光線を反射する資材（銀黒および白黒）を用いて、小豆のマルチ栽培を行ない、生育・収量に対する影響を明らかにするとともに、小豆に飛来するアブラムシを忌避することにより、小豆のウィルス病の回避の可能性について検討した（5月24日播）。出芽は、両区とも無マルチに比べわずかに早く、その後の生育も優り、収量で11%の増収となった。アブラムシの寄生については、銀黒・白黒両区とも生育初期には寄生数、寄生株率とも少なく、有翅虫の定着忌避効果はあったと考えられるが、圃場が茎葉でうっぺいされる生育後半には差がなくなった。ウィルス病の発生も全く認められなかったが、他の区も本年は発生が非常に少なく、効果の判定は困難であった。

以上の点より、マルチ効果としては実用性が高い（実）が、アブラムシの忌避、ウィルス病回避についてはさらに検討が必要である。

(3) サッソースリットマルチ

青森畑園試では、地温上昇・発芽率向上とともに子房柄の侵入を容易にするため、スリット切り込みをしたフィルムを試験した。本年度は、低温寡照の影響で全体に低収で明瞭な判断はできないが、スリット区は上実歩合が高く、上実百粒重が重いなど多収となり、普通マルチ区を上まわった。子房柄の侵入調査では、中心穴からの侵入が多い（63.1%）が、スリット部分の侵入も24.6%と高い数値を示した（シート侵入12.3%）。

以上のように、子房柄の侵入も多く、その効果は高いが、さらにスリットの方法、雑草対策

など検討が必要であり“実・継”の判定を行なった。

昭和55年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和55年12月8日～11日の4日間、植調会館および国鉄労働会館（東京都千代田区丸の内1-11-4）において開催された。ここに、その結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験（適-1）成績の検討

昭和55年度の適-1試験は、全国7地域で38薬剤（のべ146点）について試験を実施した。その判定結果は、第1表の通りである。なお、本年度は東北地域の試験場所を岩手県江刺市から宮城県古川市に移して実施した。

2) 第2次適用性試験（適-2）成績の検討

本年度の適-2試験は、108剤（のべ747点）について全国の73試験場所で試験を実施した。その内訳は、稚苗移植栽培用664点、直播栽培用18点、畦畔雑草管理用47点、耕起前雑草防除用14点、クリーク雑草防除用4点であった。このうち、本年度は畦畔雑草防除での水稻への飛散防止をねらいとした塗布処理法について、19場所で検討した。適-2試験の判定結果および実用化可能と判定された除草剤の使用基準は、第2表、第3表の通りである。

3) 水田除草剤の使用合理化に関する試験成績

の検討

①体系是正に関する試験

本課題は前年度に引続き、6薬剤について全国19場所（うち5場所は本年度より開始）で、場内試験と現地試験（農家圃場）とで除草効果および水稻への影響を同時に検討する方法で実施した。その結果、各薬剤ともきわめて効果が高く、実用化可能と認められた。その使用基準は、第4表の通りである。

②少量散布に関する試験

本年度は前年度に引き続き、全国14場所（現地試験中心）で、9除草体系を供試して初期剤または中期剤の減量使用（少量散布）の可能性について、雑草草種・地域性などの関係を考慮しながら検討した。その結果、雑草多発田や多年生雑草対象の場合には、さらに確認が必要とされたが、おおむね体系後処理剤の200～250g/aまでの減量散布が可能であるという結果が得られた。

なお、収穫期まで残存した雑草の次年度発生量に及ぼす影響などについては、さらに検討する必要があると思われる。

4) 強還元田における除草剤の安全使用に関する試験成績の検討

本課題は、3年継続試験の3年目として、

前年に引き続き10薬剤について全国8場所で試験を実施した。その結果については、3カ年分を整理して別途とりまとめ印刷中であるので、それを参照されたい。

発をねらいとして、水田状態および乾田状態で既に除草効果の確認されている除草剤13剤を供試して、ハトムギに対する薬害特性試験および適用性試験を全国9場所で検討した。その結果、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第5表の通りである。

5) ハトムギ用除草剤に関する試験成績の検討

ハトムギ栽培における有効除草剤の早急な開

第1表 昭和55年度 水稻作関係除草剤適一1試験成績判定結果一覧表

No	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要
1	CH-81	乳	未 公 開 (2種混合剤) 60+8 %	北海道, 東北, 北陸, 関東, 四 国, 九州.	○ 植代直 前・直 後 一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, (ホタルイ). (薬害 軽減——多雨条件).
2	DPX-82	粒	未 公 開 1 %	東北, 北陸, 関 東, 九州.	○〜◎ ④〜B 非イネ科一年生, マツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ, ウリカワ, ミズ ガヤツリ. (薬害軽減).
3	HM-1	粒	未 公 開 (2種混合剤) 12 %	東北, 北陸, 九 州.	○〜□ A〜C 一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, ウリカワ, (ホタルイ).
4	HM-4	粒	未 公 開 (3種混合剤) 14 %	東北, 北陸, 中 国	○〜□ B〜D 一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, ウリカワ, (ホタルイ). (薬害軽減).
5	Hoe-574	粒	未 公 開 1.5 %	東北, 関東, 九 州.	○ A〜C ノビエ, マツバイ.
6	HOK-05P	粒	ニトラリン 3 % シメトリン 1.5 % フェノチオール 0.7 %	北海道, 東北, 北陸, 関東, 四 国, 九州.	△ C〜E 一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, (ウリカワ). (薬害軽減, 効果向上).
7	HOK-35	粒	未 公 開 3 %	北海道, 東北, 北陸, 関東.	□ ④〜B 一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ.
8	HW-863	乳	未 公 開	北海道, 東北, 関東, 中国, 九 州.	○ 植代直 前・直 後 一年生, マツバイ, ヘラオモダカ.
9	HW-863	粒	未 公 開	北海道, 東北, 関東, 九州.	□ ④〜B 一年生, マツバイ, ヘラオモダカ. (薬害軽減, 残効性).
10	HW-864	粒	未 公 開 (2種混合剤)	北海道, 東北, 関東, 四国, 九 州.	○〜□ ④〜B 一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ. (薬害軽減——温暖地西 部以西).

No	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
11	KH-44	粒	未 公 開	北海道, 東北, 関東, 九州.	□ D~F	一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, (ウリカワ).
12	MH-93C	粒	MY-93 新規化合物 7% 6%	北海道, 東北, 関東, 四国, 九 州.	○ A~B	一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, (ホタルイ, ウリカワ).
13	MSW-2	粒	未 公 開 16%	北海道, 東北, 関東, 四国, 九 州.	□ A~C	一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, ミズガヤツリ, ウリカワ. (薬害軽減).
14	MSW-3	粒	未 公 開 19%	北海道, 東北, 関東, 四国, 九 州.	□ A~C	一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, ミズガヤツリ, ウリカワ. (薬害軽減).
15	MT-124	粒	未 公 開 2.5%	東北, 関東.	○ A~B	一年生, マツバイ, (ホタルイ, ヘラ オモダカ).
16	MT-224	粒	未 公 開 (2種混合剤) 12.5%	東北, 北陸, 中 国, 九州.	□ A~B	一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, ウリカワ, (ミズガヤツリ). (薬害軽減).
17	NS-40	粒	未 公 開 3.5%	東北, 関東.	△ A~C	マツバイ, ホタルイ, (ミズガヤツ リ). (薬害軽減).
18	NTN-801	粒	未 公 開	北海道, 東北, 北陸, 関東, 九 州.	○ A~C	一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, (ホタルイ, ミズガヤツリ).
19	NTN-803	粒	未 公 開	東北, 関東, 四 国.	○ A~C	一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, (ホタルイ, ミズガヤツリ).
20	NTN-804	粒	未 公 開	東北, 関東, 四 国, 九州.	○~□ B~D	一年生, マツバイ, ホタルイ, ウリ カワ, (ミズガヤツリ). (薬害軽減).
21	NTN-805	粒	未 公 開	北海道, 東北, 北陸.	□ B~D	一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, (ホタルイ).
22	NTN-806	粒	未 公 開	北海道, 東北, 関東.	○ D~G	一年生, マツバイ, ホタルイ, ヘラ オモダカ, ウリカワ, (ミズガヤツ リ).
23	NY-23	粒	未 公 開	関東.	□ A~C	一年生, マツバイ, ホタルイ, (ミ ズガヤツリ).
24	NY-24A	粒	未 公 開	北海道, 東北, 北陸, 関東, 九 州.	□ C~E	一年生, マツバイ, ヘラオモダカ, (ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツ リ). (薬害軽減).

No.	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要
25	NY-24B	粒	未 公 開	東北、関東、九州。	□ C～E 一年生、マツバイ、ヘラオモダカ、 (ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ)。 (薬害軽減)。
26	S-303	粒	未 公 開	東北、関東、九州。	□ C～E 一年生、マツバイ、(ウリカワ、ミズガヤツリ)。(薬害軽減)。
27	S-471	粒	未 公 開 11 %	北海道、東北、 関東、九州。	○ A～C 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ミズガヤツリ、(ウリカ ワ)。
28	S-472	粒	未 公 開 13 %	北海道、東北、 関東、九州。	○ A～C 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。
29	SE-31	粒	未 公 開	北海道、東北、 関東。	△ A～B 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。 (薬害軽減)。
30	SE-32	粒	未 公 開	北海道、東北、 関東、四国、九州。	□ B～D 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。 (薬害軽減)。
31	SKH-81	粒	未 公 開 7 %	東北、関東、九州。	□ A～C 一年生、マツバイ、(ホタルイ)。
32	SKH-81SM	粒	新規化合物 シメトリン MCPB 7 % 1.5 % 0.8 %	北海道、東北、 北陸、関東。	△ C～E 一年生、マツバイ、ヘラオモダカ、 (ホタルイ、ウリカワ)。(製剤検討)。
33	SL-493	粒	SL-49 既知化合物 8 % 3 %	北海道、北陸、 関東、中国、九州。	○ A～C 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ウリカワ、(ミズガヤツ リ)。
34	SL-494	粒	SL-49 既知化合物 8 % 4 %	北海道、北陸、 関東、中国、九州。	○ B～D 一年生、マツバイ、(ホタルイ、ヘ ラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツ リ)。
35	TH-80	粒	ジメタメトリン ピペロホス MCPB 1 % 3 % 0.8 %	関東、九州。	○ B～D 一年生、マツバイ、(ホタルイ、ウ リカワ、ミズガヤツリ)。
36	X-567	粒	未 公 開 13 %	北海道、東北、 関東、九州。	○ A～B 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ミズガヤツリ、(ウリカ ワ)。
37	X-567①	粒	未 公 開 11 %	東北、関東、九州。	○ A～B 一年生、マツバイ、ホタルイ、ヘラ オモダカ、ミズガヤツリ、(ウリカ ワ)。

No.	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
38	YH-413	粒	未 公 開	東北、関東、四国、九州。	○ ④～B	一年生、マツバイ、(ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ)。

注) 判定欄の記号については、◎：極めて有望、○：有望、□：可能性あり、△：再検討、×：見込みなし、を示し、また④、A、B、C、D、E、F、Gの記号はノビエを指標とする雑草ステージ別処理時期である。即ち、④：発生前、A：ノビエ1Lまで、B：1.5Lまで、C：2Lまで、D：2.5Lまで、E：3Lまで、F：3.5Lまで、G：4Lまでを意味し、雑草名は有効と判断されたものであり、()内は更に検討を要する課題・雑草名を示す。

第2表 昭和55年度 水稻作関係除草剤適一2試験結果判定一覧表

区 分	判 定	実	実 お よ び 継	継	継?	中止
Ⅱ-1 稚苗 土壌混和处理			CG-113乳, AC-553乳, G-315B乳, ロンフレンド, スターベット。	CH-81乳。		
Ⅱ-2 稚苗 移植前後土壌処理		ブタクロール粒, MC-79粒。	SL-49粒, SW-751粒, MS-358粒, MS-256粒, CG-113粒, CG-SW④粒, MH-93A粒, YH-3粒, YH-411粒, G-315・SK粒, X-52・SK-23粒, ACN粒。	CH-81粒, HSW-782粒, SL-493粒。		
Ⅱ-3 稚苗 移植後土壌処理			CG-113粒, MG-1粒, MM-3粒。	S-471粒, X-567粒, YH-406粒。		
Ⅱ-4 稚苗 茎葉兼土壌処理			CG-102④粒, TH-80粒, HOK-05M粒, YH-5粒, B-3015・MCPB・BAS粒, B-3015・MCPB・BAS(Na)粒。	HSW-791粒, HSW-792粒, KH-44粒, SL-494粒, HOK-05P粒。		
Ⅱ-5 稚苗 適用時期拡大		BAS-3510粒。	SW-751粒, MT-101粒, MTB-3015④粒, CG-102粒, CG-102④粒, TH-80粒, HOK-05M粒, B-3015S粒, B-3015S・BAS(Na)粒, KH-199粒, S-28・SM粒, SC-7616粒, SMX④粒, YH-5粒, NKB-1粒, MCC・MCPB粒, SMX粒。	HOK-05P粒。		
Ⅱ-6-(1) 稚苗 クログワイ対象			G-315・SK粒, MTS-1粒, X-52・SK-23粒, YH-3粒, B-3015S・MCPB粒, モリネートSM粒, TH-63粒, BAS-3510水和, MCP・BAS水和, 2,4PA・BAS水和。	YH-411粒, YH-5粒, SMX粒。		
Ⅱ-6-(2)			B-3015S・MCPB粒, TH-63			

区 分	判 定	実	実 お よ び 継	継	継?	中止
Ⅱ-6-(2) 稚苗 (つづき) オモダカ対 象			粒, SMX粒, SMX-①粒, BAS -3510粒, BAS-3510水和.			
Ⅱ-6-(3) 稚苗 セリ対象			HOK-05B粒.	KH-199粒, SMX粒.		
Ⅱ-6-(4) 稚苗 コウキヤガ ラ対象			MCP・BAS水和.			
Ⅱ-6-(5) 稚苗 ヒルムシロ 対象			シメトリン・MCPB粒.			
Ⅲ-1 湛水直播			MY-93粒, SW-751粒.			
Ⅲ-2 乾田直播			MY-93D乳, BAS-3510水和.			
Ⅳ 畦畔	Mon-39 液(茎葉 処理)	Mon-39液(塗布処理), HW-45 C粒, NKG-1水和, MW-801 液, SSH-43粒.	SL-236乳.			
V 耕起前		AH-501①液, MW-801液.	MW-801液(ミズガツリ).			
Ⅵ クリーク雑草		Mon-39液.				

注) 1. 上記薬剤のほか, BM-3015粒+MT-101粒, BM-3015→シメトリン・MCPB 2.5粒, CG-113→
B-3015・S・MCPB粒について試験実施され, それぞれ組み合わせ処理で有効と判断された. また, ウリカ
ワの次年度発生についてのシメトリン・MCPB 2.5粒は本年度の判定なし.

2. 本年度は「継?」「中止」と判定された薬剤はなかった.

第3表 昭和55年度 水稻作関係除草剤適-2使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-1 稚苗・土壌混和処理	2) CG-113 乳	土壌混和処理	寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ヘラオ モダカ.	植代直後.	ml/a 50~65	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下)	
	3) AC-553 乳	土壌混和処理	暖地の普通 期.	一年生雑草.	植代直後(-3).	ml/a 50~65	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下)	

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ-1 稚苗・土壌混和処理 (つづき)	4) G-315B 乳	土 壌 混 和 処 理	寒地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	植代直前直後 (-3~-1).	m ^l /a 50~75	砂壤土〜 埴土 (2cm/日以下).	1) 混和時の水深3〜5cm. 2) 混和深2〜3cm. 3) 吸着の悪い土壌 (砂壤土, 腐植含量の少ない土壌)では, 水の動きの少ない場合に薬害の危険性があるので十分注意する.	
			寒冷地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ.					
			温暖地の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ. 〔但し, ヘラオモダカは温暖地東部のみ.〕		50~65			
			暖地の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズガヤツリ. 〔但し, ホタルイは普通期のみ, ミズガヤツリは早期のみ〕		50			
	5) ロンフレンド 〔G-315の散布装置〕	土 壌 混 和 処 理	全域の普通期.	一年生雑草, マツバイ.	植代直前直後 (-3~-1).	m ^l /a 50 〔但し, 温暖地西部, 暖地は30~50.〕	砂壤土〜 埴土 (2cm/日以下).	1) 混和時の水深3〜5cm. 2) 混和深2〜3cm. 3) 吸着の悪い土壌 (砂壤土, 腐植含量の少ない土壌)では 水の動きの少ない場合に薬害の危険性があるので十分注意する. 4) 30〜40ml の場合は, 中後期処理剤との組み合わせ使用する. 5) <u>ロンフレンドによる散布作業時間にあわせて調整を行なう.</u>	
			温暖地の早期.			50			壤土〜 埴土 (2cm/日以下).
			暖地の早期 (沖縄1期作含む).			36~50			
		(大型機械散布) 土 壌 混 和 処 理	全域の普通期.	一年生雑草, マツバイ.	植代直前直後 (-6~-1).	50 〔但し, 寒地は50~67.〕	砂壤土〜 埴土 (2cm/日以下).		

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 稚 苗 ・ 土 壌 混 和 処 理 (つづき)	6) スターペ ット 〔G-315の〕 散布装置		5) ロンフ レンドの 項参照.					1) 混和時の水深3～ 5 cm. 2) 混和深2～3 cm. 3) 吸着の悪い土壌 (砂壌土、腐植含量 の少ない土壌)では 水の動きの少ない場 合に薬害の危険性が あるので十分注意す る. 4) 30～40 ml の場合 は、中後期処理剤と の組み合わせ使用する. 5) スターペットによ る散布は大規模水田 に適用し、散布作業 時間にあわせてチュ ーブの長さを調整す る.
Ⅱ 2 稚 苗 ・ 移 植 前 後 土 壌 処 理	3) <u>SL-49</u> 粒	土 壌 処 理	寒冷地. 温暖地以西 の普通期、 温暖地東部 の早期.	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、 ヘラオモダカ. 一年生雑草、マ ツバイ、ウリカ ワ. 〔但し、ホタル イは温暖地西 部のみ.〕	-3、+3～+7 (ノビエ1 Lまで). 〔但し、暖地は〕 1.5 Lまで、温 暖地西部は 〔-3を除く.〕 ホタルイ、ヘラ オモダカ：発生 始まで. ウリカワ：2 L まで.	g/a 300	壤土～ 埴土 (2 cm/日 以下). 〔但し、 温暖地 東部は 砂壌土 ～埴土 (2 cm /日以 下).〕	
	5) <u>SW-751</u> 粒	土 壌 処 理	寒地. 寒冷地. 温暖地以西	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ、ヒルムシロ. 一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、 オモダカ、ヘラ オモダカ、ミズ ガヤツリ、ヒル ムシロ. 一年生雑草、マ	-3～+7(ノビ エ1 Lまで). 〔但し、温暖地〕 西部はノビエ 1.5 Lまで、 暖地はノビエ 〔2 Lまで.〕 ヘラオモダカ、 ウリカワ：発生 前～2 L. ホタルイ、オモ ダカ、ミズガヤ ツリ：発生始ま で.	g/a 300～ 400	砂壌土～ 埴土 (2 cm/日 以下). 〔但し、 寒地は 壤土～ 埴土 (2 cm /日以 下).〕	1) 砂壌土で著るしい 高温条件の時はクロ ロシスの発生が著る しいので注意する.

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ Ⅰ Ⅱ 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つづき)	5) SW-751 粒 (つづき)		の普通期.	ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, <u>オモダカ</u> , ミズ ガヤツリ, <u>ヒル ムシロ</u> ; 〔但し, <u>オモダ カ</u> は温暖地東 部のみ, ミズ ガヤツリは暖 地を除く.〕	ヒルムシロ: 発 生期.			
			温暖地以西 の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ. 〔但し, ホタル イ, ミズガヤ ツリは温暖地 西部を除く.〕				
	6) ブタクロ ール粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ.	-8~+10 (ノ ビエ1.5Lまで). ホタルイ: 発生 前~2L. ヘラオモダカ: 発生前~始.	g/a 200~ 300	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 極端な浅植えはさ ける. 2) 低温時には使用し ない. 3) 200 g/a散布は多 口ホース散布とする.
				寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ミズガヤツ リ.			
					一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツ リ.	+3~+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ: 発生 前~2L. ミズガヤツリ: 発生前~3L.		
				温暖地の普 通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツ リ.	-6~-3		
						+3~+10(ノビ エ1.5Lまで).		

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ ― 2 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つ づ き)	6) ブタクロール粒 (つづき)				ホタルイ：発生 前～2L. ミズガヤツリ： 発生前～3L.			
			暖地の早期	一年生雑草，マ ツバイ.	－6～－3	g/a 200～ 300		
				一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ミズガヤツ リ.	+3～+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ：発生 前～2L. ミズガヤツリ： 発生前～3L.	300		
			暖地の普通 期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ミズガヤツ リ.	+3～+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ：発生 前～2L. ミズガヤツリ： 発生前～3L.	300		
	7) MS-358 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ，ヒルムシロ.	－3，+3～+10 (ノビエ1.5Lま で). ホタルイ，ヘラ オモダカ，ミズ ガヤツリ：2L まで. ウリカワ：3L まで. ヒルムシロ：発 生期.	g/a 300	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下). 〔但し， 寒地～ 温暖地 東部は 埴土～ 埴土 (2cm /日以 下).〕	1) ブタクロールおよ びピラゾレート粒剤 に準ずる.
	寒冷地，温 暖地東部の 普通期・早 期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ， ヘラオモダカ， ミズガヤツリ， ヒルムシロ.						
	温暖地西部 の普通期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ， ミズガヤツリ， ヒルムシロ.	+3～+10(ノビ エ2Lまで). ホタルイ，ミズ ガヤツリ：2L まで. ウリカワ：3L まで. ヒルムシロ：発 生期.					
	暖地の普通 期.	一年生雑草，マ ツバイ，ウリカ	+3～+7(ノビ エ2Lまで).					

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ Ⅰ 2 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つづき)	7) MS-358 粒 (つづき)			ワ, ヒルムシロ.	ウリカワ: 3L まで. ヒルムシロ: 発 生期.			
	8) MS-256 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, <u>ヒルムシロ</u> .	-3~+10(ノビ エ1.5Lまで). 〔但し, 温暖地 西部は-3~ +7(ノビエ1.5 Lまで).〕	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 極端な浅植えはさ ける. 2) 低温時には使用し ない.
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, <u>ヒルムシロ</u> .	ホタルイ, ヘラ オモダカ: 発生 始まで〔但し, 寒地は2Lま で〕. ウリカワ, オモ ダカ, ミズガヤ ツリ: 発生始ま で. ヒルムシロ: 発 生期.		〔但し, 寒地・ 寒冷地 は埴土 ~埴土 (2cm /日以下), 暖 地の早 期は砂 壤土~ 埴土(1 cm/日 以下).〕	
			温暖地東部 の早期・普 通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, オモダカ, ミズ ガヤツリ, ヒル ムシロ.				
			温暖地西部 の早期・普 通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ, <u>ヒルムシロ</u> , 〔但し, <u>ヒルム シロは普通期 のみ</u> .〕				
			暖地の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	+3~+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ, ミズ ガヤツリ: 発生 始まで. ウリカワ: 発生 前~2L.			
			暖地の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ, ヒルムシロ.	-2~-3, +3~ +7(ノビエ2L まで). ホタルイ, ミズ ガヤツリ: 発生 始まで.			

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ 2 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つ づ き)	8) MS-256 粒 (つ づ き)				ウリカワ：発生 前～2L. ヒルムシロ：発 生期.			
	9) 10) CG-113 粒 〔Ⅱ-3-3〕 と共通	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ.	-5～+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ，ヘラ オモダカ，ミズ ガヤツリ：発生 始まで.	g/a 300	壤土～ 埴土 (2cm/日 以下). 〔但し， 暖地早 期は砂 壤土(1 cm/日 以下) を含む〕	
			寒冷地.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ，ミズガヤツ リ.				
			温暖地の早 期・普通期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ，ミズガヤツ リ. 〔但し，ヘラオ モダカは温暖 地東部のみ.〕	-3～+10(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ，ヘラ オモダカ，ミズ ガヤツリ：発生 始まで.			
			暖地の早期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ミズガヤツ リ.	+3～ノビエ1 Lまで. ホタルイ，ミズ ガヤツリ：発生 始まで.			
			暖地の普通 期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ.	-3～+7(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ：発生 始まで.			
	11) 12) CG-SW① 粒	土 壌 処 理	寒冷地.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ，ウリカワ， ミズガヤツリ.	-3，+3～+10 (ノビエ1.5Lま で). 〔但し，温暖地〕 西部以西は -3，+3～+7 (ノビエ1.5L まで). ホタルイ，ヘラ オモダカ，ミズ ガヤツリ：発生	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下). 〔但し， 寒冷地 は埴土 ～埴土 (2cm /日以 下).〕	1) ピラゾレートに準 ずる.
			温暖地の早 期・普通期.	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ， ミズガヤツリ. 〔但し，ミズガ				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 2 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つづき)	11) 12) CG-SW㊟ 粒 (つづき)			ヤツリは温暖 [地東部のみ.]	始まで。 ウリカワ：2L まで。			
			暖地の普通 期。	一年生雑草，マ ツバイ，ウリカ ワ。				
	13) MC-79 粒	土 壌 処 理	寒地，寒冷 地，温暖地 の早期・普 通期。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ。 〔但し，ヘラオ モダカは温暖 地西部の早期 を除く。〕	-3～+8（ノビ エ1Lまで）。 〔但し，寒冷地 は-7～+8 （ノビエ1Lま で）。 ホタルイ，ヘラ オモダカ：発生 始まで。	g/a 300～ 400	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し， 温暖地 東部は 砂壌土 ～埴土 (極端 な漏水 田を除 く)。〕	1) 深水処理はさける。
			暖地の普通 期。	一年生雑草，マ ツバイ。				
	14) MH-93A 粒	土 壌 処 理	温暖地東部 の普通期。	一年生雑草，マ ツバイ。	-3，+3～+8 (ノビエ1Lま で)。	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	
	15) YH-3 粒 〔Ⅱ-6-1〕 と共通	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ。	-3～+7(ノビ エ1Lまで)。 ホタルイ，ヘラ オモダカ，ミズ ガヤツリ：発生 前～2L。 <u>クログワイ：発 生始まで。</u>	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し， 温暖地 は砂壌 土～埴 土(2 cm/日 以下)〕	1) 深水処理はさける。 2) <u>クログワイ防除は クログワイにも有効 な後期処理剤と組み 合せて使用する。</u>
			寒冷地。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ，ミズガヤツ リ。				
			温暖地の普 通期，温暖 地東部の早 期。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ， <u>ミズガヤツ リ</u> ， <u>クログワイ</u> 。 〔但し， <u>クロ グワイは普 通期のみ。</u> 〕				
	16) YH-411 粒	土処 理	寒地，寒冷 地。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル	-3～+5(ノビ エ1Lまで)。	g/a 300～	埴土～ 埴土	1) 深水処理はさける。

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ ― 2 移 植 前 後 土 壌 処 理 (つ づ き)	16) YH-411 粒 (つづき)			イ, ヘラオモダカ.	ホタルイ, ヘラオモダカ: 発生前~始.	400	(2cm/日以下).	
			温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ.				
	17) G-315・SK粒 〔Ⅱ-6-1〕と共通	土 壌 処 理	全域の普通期, 温暖地東部の早期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ. 〔但し, ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ.〕	-3~+5(ノビエ1Lまで). ホタルイ, ヘラオモダカ: 発生始まで.	g/a 300	壤土~ 埴土 (2cm/日以下). 〔但し, 温暖地西部は砂埴土~埴土(2cm/日以下).〕	1) 深水処理はさける. 2) クログワイ防除はクログワイにも有効な後期処理剤と組み合わせて使用する.
			温暖地の普通期.	クログワイ.	田植後(+5). クログワイ: 発生始まで.			
(つづき)	18) X-52・SK-23粒 〔Ⅱ-6-1〕と共通	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	-3~+7(ノビエ1Lまで). ホタルイ, ヘラオモダカ, ヒメホタルイ, クログワイ: 発生始まで. ミズガヤツリ: 発生前~3L.	g/a <u>300</u> ~ <u>400</u> 〔但し, <u>400</u> +0は <u>300</u> のみ.〕	壤土~ 埴土 (2cm/日以下). 砂 埴 土 (1cm/日以下).	1) X-52 粒剤に準ずる. 2) 深水処理はさける. 3) クログワイ防除はクログワイにも有効な後期処理剤と組み合わせて使用する.
			寒冷地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, クログワイ.				
			温暖地の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヒメホタルイ, ミズガヤツリ, クログワイ. 〔但し, クログワイは温暖地東部のみ.〕				
			暖地の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズガヤツリ, クログワイ. 〔但し, ミズガヤツリは早期のみ, クログワイは普通期のみ.〕				

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 2 移植前後土壌処理 (つづき)	19) ACN粒	土 壌 処 理	寒地.	表層剥離.	雑草発生時・表 層剥離発生時.	g/a <u>100</u> ~ 200	埴壌土 (2cm/日 以下)	1) ウリカワの葉期(適 期)に注意する. 2) 処理後の保水に留 意する. 3) <u>表層剥離防止をね らいとした場合は一 年生雑草対象の土壌 処理剤との混用も可 能である.</u>
			寒冷地.	アオミドロ, ア オウキクサ, ア ミミドロ, ウキ クサ, イチョウ ゴケ, 表層剥離.				
		茎 葉 処 理 ・ 土	暖地の普通 期.	ウリカワ.	+10 ~ +15 ウリカワ: 2 ~ 4L.	300 ~ 400	砂壌土 ~ 埴土 (3cm/日 以下).	
Ⅱ 3 移 植 後 土 壌 処 理	4) MG-1 粒	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, <u>ヘラオモダ カ</u> , ウリカワ. 〔但し, <u>ヘラオ モダカは寒地 のみ</u> . ホタル イは暖地を除 く.〕	+3 ~ +7 (ノビ エ1Lまで). ホタルイ, ヘラ オモダカ, ウリ カワ: 発生始ま で. 〔但し, 温暖地〕 西部以西では ホタルイ, ウ リカワともに (2Lまで).〕	g/a 300 ~ 400	埴土 ~ 埴土 (1.5cm /日以下). 〔但し,〕 温暖地 東部は 砂壌土 ~埴土 (1.5 cm/日 以下).〕	1) 深水にならないよ うに注意する.
	5) MM-3 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, <u>ヘラオモダ カ</u> , <u>ウリカワ</u> .	+3 ~ +10 (ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ, ヘラ オモダカ, ウリ カワ, ミズガヤ ツリ: 発生始 ~ 2L.	g/a 300 ~ 400	埴土 ~ 埴土 (1.5cm/ 日以下).	1) ブタクロール粒剤 に準ずる.
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, <u>ヘラオモダ カ</u> , ウリカワ, ミズガヤツリ.				
			温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
			暖地の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
Ⅱ 4	5) <u>CG-102</u> ①粒	茎 葉 ・	温暖地西部 の普通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ヒルム	+10 ~ ノビエ2 Lまで.	g/a 300	砂壌土 ~ 埴土	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ Ⅰ 4	5) CG-102 ①粒 (つづき)	土 壌 処 理		シロ.	ヒルムシロ：発 生盛期～増殖 初期.		(2cm/日 以下).	もる.
茎 葉 兼 土 壌 処 理 (つ づ き)	6) TH-80 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	暖地の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ.	+7～ノビエ 2.5 L まで.	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (1cm/日 以下).	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる.
	8) HOK - 05 M 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地東部 の普通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ.	+10～ノビエ 2.5 L まで. ウリカワ：3 L まで.	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2cm/日 以下).	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 2) 低温時は葉害の危 険性があるので使用 はさける.
	9) YH-5 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.	+10～ノビエ 2.5 L まで. 〔但し, 早期は〕 +15～ノビエ 〔2.5 L まで.〕 ホタルイ：発生 始～2 L. ウリカワ：発生 始～4 L.	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2cm/日 以下).	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 2) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける.
	10) B-3015・ MCPB・ BAS 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地東部 の普通期. 温暖地西部 の普通期. 暖地の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ. 一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ. 一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ.	+7～ノビエ 2.5 L まで. ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤ ツリ：発生始～ 3 L.	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (1.5cm/ 日以下).	
	11) B-3015・ MCPB・ BAS(Na) 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地の普 通期. 暖地の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ. 一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ.	+7～ノビエ 2.5 L まで. 〔但し, 温暖地〕 東部は+10～ ノビエ 2.5 L ま で.	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (1.5cm/ 日以下).	

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ Ⅰ 5 適 用 時 期 拡 大	1) <u>SW-751</u> <u>粒</u>	土 壌 処 理	温暖地西部 の普通期	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ， ミズガヤツリ， ヒルムシロ。	田植前後土壌処 理した場合， +5～+15（ノビ エ1.5Lまで）。 〔但し，暖地は ノビエ2Lま で。〕	g/a 300	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。 2) 砂壌土で著るしい 高温条件の時はクロ ロシスの発生が著る しいので注意する。
			暖地の普通 期。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ。	ホタルイ，ミズ ガヤツリ：発生 始まで。 ウリカワ：発生 前～2L。 ヒルムシロ：発 生期。			
	2) 3) 4) MT-101 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西 の普通期， <u>暖地の早期</u> 。	一年生広葉雑草， マツバイ，ホタ ルイ，ウリカワ。 〔但し，ホタル イは温暖地西 部のみ〕	田植前後土壌処 理した場合， +5～+15。 〔但し，暖地の 普通期は+5 ～+10，暖地 の早期は+10 ～+20。〕 ホタルイ：発生 始～2L。 ウリカワ：発生 始～3L。 〔但し，温暖地 のウリカワは 発生始～4L。〕	g/a 300～ 400	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。
	5) 6) MT-B3015 ㊥粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地，寒冷 地。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ヘラオモダ カ， <u>ウリカワ</u> 。	田植前後土壌処 理した場合， +15～+20（ノ ビエ2Lまで）。 〔但し，温暖地 の普通期は+ 10～+20，寒 地はノビエ1.5 Lまで。〕 ホタルイ，ヘラ オモダカ，オモ ダカ：発生始～ 2L。 ウリカワ，ミズ ガヤツリ：発生 始～3L。	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。
			温暖地東部 の早期・普 通期。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，オモダカ， ウリカワ，ミズ ガヤツリ。				
			温暖地西部 の早期・普 通期。	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ。				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5 適 用 時 期 拡 大 (つづき)	7) CG-102 粒	茎葉・土壌処理	寒地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ヒルムシロ, アオミドロ.	田植前後土壌処理した場合, +15~+25 (ノビエ 2.5 L まで). 〔但し, 寒地は〕ノビエ 2 L まで.	g/a 300 ~ 400 〔但し, ヒルムシロ対象では 200 ~ 250.〕	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる. 3) ミズガヤツリの場合は, ミズガヤツリに有効な土壌処理剤と組み合わせて使用する.
			寒冷地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, ヒルムシロ, ウキクサ, アオミドロ.	ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ: 発生始~2 L. ヒルムシロ: 発生盛~増殖初期.			
			温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズガヤツリ, ヒルムシロ, ヒメホタルイ, ウキクサ, アオミドロ.	ヒメホタルイ: 草丈 5~10cm.			
			温暖地西部以西の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヒルムシロ.				
		同量上処理 (低葉)	温暖地の普通期.	一年生雑草, マツバイ.	田植前後土壌処理した場合, +15~+20 (ノビエ 2 L まで).	200 ~ 250	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する.
	8) CG-102 ①粒	茎葉・土壌処理	温暖地以西の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ヒルムシロ. 〔但し, ヒルムシロは温暖地 (東部を除く).〕	田植前後土壌処理した場合, +15~+20 (ノビエ 2 L まで). ヒルムシロ: 発生盛~増殖初期.	g/a 300 ~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる.
	9) TH-80 粒	茎葉・土壌処理	温暖地東部・暖地の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ウリカワ.	田植前後土壌処理した場合, +15~+25 (ノビエ 2.5 L まで). ウリカワ: 発生揃~5 L. ヒルムシロ: 発生盛~増殖初期.	g/a 300 ~ 400	砂壤土~ 埴土 〔但し, 暖地は埴埴土~埴土〕 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる.
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ヒルムシロ.				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適 用 時 期 拡 大 (つづき)	11) HOK-05 M粒	茎葉・土壌処理	寒冷地・温暖地の普通期。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ。 〔但し、ホタルイ、ヘラオモダカは寒冷地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25 (ノビエ2.5 Lまで)。 ホタルイ、ヘラオモダカ：発生盛～3 L。 ウリカワ：発生盛～4 L。	g/a 300～400	砂壤土～ 埴土 〔但し、寒冷地は埴土～埴土 (2cm/日以下)〕。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。
	12) B-3015 S 粒	茎葉・土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草、マツバイ。	田植前後土壌処理した場合、 +15～+25 (ノビエ2 Lまで)。	g/a 300～400 〔但し、寒地は300〕	砂壤土～ 埴土 〔極端な漏水田はさける。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。
	13) B-3015 S・BAS (Na) 粒	茎葉・土壌処理	寒地。 寒冷地・温暖地東部の普通期。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ。 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ。	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25 (ノビエ2.5 Lまで)。 〔但し、寒地は+20～+30 (ノビエ2 Lまで)〕。 ホタルイ：発生始～3 L。 ヘラオモダカ、ウリカワ：発生始～4 L。 ミズガヤツリ：発生始～5 L。	g/a 300～400 〔但し、寒地は300〕	埴土～ 埴土 〔但し、温暖地東部は砂壤土～埴土 (2cm/日以下)〕。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。
	14) KH-199 粒 〔Ⅱ-6-3と共通〕	茎葉・土壌処理	寒地。 寒冷地、温暖地東部の早期・普通期。 温暖地西部の早期・普通期。 暖地の早期・普通期。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ。 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ。 一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、ヒルムシロ、ウキクサ。 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ。	田植前後土壌処理した場合、 寒地：+20～+30 寒冷地・暖地：+20～25。 温暖地：+15～+20 (ノビエ1.5 Lまで)。 〔但し、寒冷地以北はイネ5 L期以降。〕 ホタルイ：発生始～2 L。 ヘラオモダカ：発生始～4 L。 ウリカワ：発生盛～5 L。 ヒルムシロ：発	g/a 300～400 〔但し、寒地・暖地は300のみ。〕	砂壤土～ 埴土 〔但し、寒地・温暖地東部・暖地は埴土～埴土 (2cm/日以下)〕。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適 用 時 期 拡 大 (つづき)	14) KH-199 粒 (つづき)			ヒルムシロ。 〔但し、ホタル イは早期のみ。 ヒルムシロは 普通期のみ。〕	生盛～増殖初 期。			
	15) S-28SM 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ。	田植前後土壌処 理した場合、 +20～+30 (ノ ビエ2Lまで)。 〔但し、イネ5 L期以降、寒 冷地はノビエ 2.5Lまで。〕	g/a 300 〔但し、 寒冷地 は300 〔～400〕 〕	壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、 寒冷地 以西は 砂壤土 (1cm/ 日以下) を含む〕	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる。 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける。
			寒冷地。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ、ウリカワ。				
			温暖地東部 の早期・普 通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ、ウリカワ、 ヒメホタルイ。	田植前後土壌処 理した場合、 +20～+25 (ノ ビエ2.5Lまで)。 ホタルイ：発生 始～2L。			
			温暖地西部 以西の早期 ・普通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ。 〔但し、ホタル イは暖地の早 期のみ。〕	ヘラオモダカ、 ウリカワ：発生 始～4L。 ヒメホタルイ： 草丈5～10cm。			
	16) 17) SC-7616 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地西部 以西の普通 期、暖地の 早期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ。 〔但し、ホタル イは暖地の早 期のみ。〕	田植前後土壌処 理した場合、 +20～+25 (ノ ビエ1.5Lまで)。 ホタルイ：発生 始～2L。 ウリカワ：発生 始～5L。	g/a 300～ 400 〔但し、 暖地は 300の み。〕	壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる。 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける。
	18) 19) SMX① 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ。	田植前後土壌処 理した場合、 寒地：+20～+ 30 (ノビエ2 Lまで)。 寒冷地：+20～ +25 (ノビエ 2Lまで)。 温暖地東部以西：	g/a 300～ 400 〔但し、 寒地・ 暖地は 300の み。〕	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、 砂壤土 は寒冷 地のみ。〕	1) 前処理剤との組み 合せて使用する 2) シメトリン混合剤 使用上の注意をまも る。 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける。 4) ミズガヤツリの場

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 5 適 用 時 期 拡 大 (つ づ き)	18) 19) SMX㊶粒 (つづき)			ミズガヤツリ.	+20～+25 (ノ ビエ1.5Lまで).			合はミズガヤツリに 有効な土壤処理剤と 組み合わせて使用する.
			<u>温暖地東部の 普通期.</u>	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, オモダカ, ミズ ガヤツリ.	〔但し, 寒冷地 以北はイネ5 L期以降.〕 ホタルイ, ウリ カワ, オモダカ, ミズガヤツリ: 発生始～4L.			
			<u>温暖地西部 以西の普通 期, 暖地の 早期.</u>	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガ ヤツリは暖地 の早期のみ.〕	〔但, 寒冷地以 北は発生始～ 3L.〕 ヘラオモダカ: 発生始～4L.			
	20) YH-5粒	茎葉・土 壤処理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ.	田植前後土壤処 理した場合, 寒地: +20～+ 30 (ノビエ2 Lまで).	g/a 300～ 400 〔但し, 暖 地は300の み.〕	壤土～ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は稗害発生 の危険性があるので 使用はさける.
			寒冷地, 温 暖地東部の 早期・普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	寒冷地以西: + 20～+25 (ノ ビエ2.5Lま で).			
			温暖地西部 の普通期, 暖地の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.	〔但し, 暖地は ノビエ2Lま で, 寒冷地以 北はイネ5L 期以降.〕 ホタルイ: 発生 始～2L. ウリカワ, ヘラ オモダカ: 発生 始～4L. ミズガヤツリ: 発生始～3L.			
	21) BAS- 3510粒 〔Ⅱ-6-2〕 と共通	茎葉 処理 (灌水 処理)	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生非イネ科 雑草, ホタルイ, ウリカワ, ミズ ガヤツリ, ヘラ オモダカ.	田植前後土壤処 理した場合, 一年生非イネ科 : 生育期. ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤ ツリ, ヘラオモ ダカ: 発生盛～ 増殖初期	g/a 300～ 600	砂壤土～ 埴土 (1.5cm/ 日以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) 処理後の灌水は, 48～72時間経過後行 なう.

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 5 適 用 時 期 拡 大 (つ づ き)	21) BAS-3510粒 (つづき)	茎葉処理 (浅水もしくは落水散布)	寒地(道央以南).	一年生非イネ科雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合, 一年生非イネ科:生育期, ホタルイ:発生盛~花茎抽出始期.	g/a 300~400 [但し, 寒地は400~600.]	砂壤土~埴土 (1.5cm/日以下). [但し, 寒地は埴土~埴土 (2cm/日以下).]	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) 落水もしくは浅水で使用する. 3) 処理後の灌水は, 48~72時間経過後に行なう. 4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる. 5) 寒地浅水処理は, 浅水処理後3日中止水する.
			寒冷地.	一年生非イネ科雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, オモダカ, ミズガヤツリ.	ウリカワ, ミズガヤツリ, ヘラオモダカ:発生盛~増殖初期.			
			温暖地東部の早期・普通期.	一年生非イネ科雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ウリカワ, オモダカ, ミズガヤツリ.	[但し, 温暖地以西は発生盛~増殖中期.] オモダカ:発生盛~発生摘期.			
			温暖地西部以西の普通期, 暖地の早期.	一年生非イネ科雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ, オモダカ. [但し, オモダカは普通期のみ.]	[但し, 温暖地西部以西は発生盛~矢じり葉初期.]			
	22) NKB-1粒	土壌処理	寒冷地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ.	-3~ノビエ2Lまで. ホタルイ:発生始まで.	g/a 300~400	埴土~埴土 (2cm/日以下). [但し, 温暖地西部は埴土~埴土 (1.5cm/日以下).]	
			温暖地以西の普通期, 温暖地東部の早期.	一年生雑草, マツバイ.	+0~ノビエ2Lまで. 但し, 温暖地西部以西は+2~ノビエ2Lまで.			
	25) MCC・MCPB粒	茎葉・土壌処理	温暖地の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ.	田植前後土壌処理した場合, +20~+25(ノビエ2L). ホタルイ:発生始~2L. ウリカワ:発生始~4L.	g/a 300~400	砂壤土~埴土 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける. 3) 有機リン剤・カーバメート系殺虫剤との近接散布をさける.

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意		
Ⅱ 5 適 用 時 期 拡 大 (つづき)	26) SMX 粒 〔Ⅱ-6-1, Ⅱ-6-2, Ⅱ-6-3 と共通〕	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合, 寒地: +20~+30(ノビエ1.5L).	g/a 300	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下). 〔但し, 寒地は 埴土~ 埴土 (2cm/日以下), 暖地は埴土~ 埴土 (1.5cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる. 3) 低温時は葉害発生の危険性があるので使用はさける.		
			寒冷地.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ウリカワ, ミズガヤツリ, オモダカ.	寒冷地: +20~+25(ノビエ2L). 温暖地: +15~+25(ノビエ2L). 暖地: +20~+25(ノビエ1.5L).					
			温暖地以西の普通期, 暖地の早期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガヤツリは暖地普通期を除く.〕	〔但し, 寒冷地以北はイネ5L期以降.〕 ホタルイ, ヘラオモダカ, ウリカワ, ミズガヤツリ: 発生盛~5L. 〔但し, 暖地のウリカワは3~8L. オモダカ: 発生盛~6L.〕					
			<Ⅱ-2-17 参 照>							
Ⅱ 6 1 ク ロ グ ワ イ 対 象	1) G-315・SK 粒		<Ⅱ-2-17 参 照>							
	2) MTS-1 粒	土 壌 処 理	全域の早期・普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, クログワイ. 〔但し, クログワイは寒冷地温暖地の普通期および温暖地東部の早期のみ.〕	-3~+7(ノビエ1Lまで). ホタルイ, クログワイ: 発生始まで.	g/a 300~ 400	埴土~ 埴土 (2cm/日以下).	1) CNPに準ずる. 2) クログワイ防除はクログワイにも有効な後期処理剤と組み合わせで使用する.		
	3) X-52・SK-23 粒	<Ⅱ-2-18 参 照>								
	4) YH-411 粒	<Ⅱ-2-16 参 照>								

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ 6 1 ク ロ グ ワ イ 対 象	5) YH-3 粒	< Ⅱ - 2 - 15 参 照 >						
	6) YH-5 粒	< Ⅱ - 5 - 20 参 照 >						
	7) B-3015 S ・ MCPB 粒 〔Ⅱ - 6 - 2〕 と共通	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ.	田植前後土壌処 理した場合, 寒地: +20~+ 30(ノビエ 2.5 L).	g/a 300~ 400 〔但し, 寒地は 300〕	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下). 砂壤土 (1cm/日 以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は薬害発生 の危険性があるので 使用はさける. 4) クログワイ防除は クログワイに有効な 前処理剤との組み合 せて使用する.
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, オモダカ, ミズ ガヤツリ, クロ グワイ.	寒冷地・温暖地 東部: +20~+ 30(ノビエ 3 L). 温暖地西部以西 : +20~+25 (ノビエ 3 L). 〔但し, 寒冷地〕 以北はイネ 5 L 期以降.			
			温暖地東部 の早期・普 通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, オモダカ, ミズ ガヤツリ, クロ グワイ.	〔但し, 寒冷地〕 以北はイネ 5 L 期以降. ホタルイ, ヘラ オモダカ, ウリ カワ, ミズガヤ ツリ: 発生始~ 4 L.			
			温暖地西部 以西の普通 期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, クログワイ, オ モダカ. 〔但し, クログ ワイは温暖地 西部のみ.〕	〔但し, 温暖地〕 西部以西のウ リカワは発生 始~5 L. オモダカ: 発生 始~2 L. 〔但し, 温暖地〕 西部以西のオ モダカは発生 始~矢じり葉 初期. クログワイ: 発 生始~草丈 5 cm.			
	8) モリネー ト SM 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ.	田植前後土壌処 理した場合, +20~+30(ノ ビエ 3.5 L まで).	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下). 〔但し, 暖地の 普通期 は(1	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時の使用は薬 害発生の危険性があ るのでさける.
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ	〔但し, 寒地は〕 2.5 L まで, 寒 冷地以北はイ ネ 5 L 期以降.			

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ 6 1 ク ロ グ ワ イ 対 象 (つ づ き)	8) モリネー トSM粒 (つづき)			カ、ウリカワ、 オモダカ、ミズ ガヤツリ、 <u>クロ グワイ</u> 。	暖地の普通期 は+20～+25 (ノビエ3.5L まで)。 ホタルイ、オモ ダカ：発生始～ 5L。 ウリカワ、ヘラ オモダカ：発生 始～4L。 ミズガヤツリ： 発生始～2～ 6L。 ヒメホタルイ： 草丈10cm以 下。 <u>クログワイ：発 生始～草丈5 ～10cm。</u> (但し、暖地の 普通期ではウ リカワ：3～ 6L。ミズガ ヤツリ：発生 揃～6L。)		cm/日 以下)。	4) ミズガヤツリの場合 は、ミズガヤツリ に有効な土壌処理剤 (前処理剤)との組み 合せて使用する。 5) <u>クログワイ防除は クログワイに有効な 前処理剤との組み合 せで使用する。</u>
			温暖地東部の 早期・普通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、 ヒメホタルイ、 <u>クログワイ</u> 。 (但し、 <u>クログ ワイは普通期 のみ。</u>)				
			温暖地西部 以西の早期 ・普通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、 ミズガヤツリ。				
	9) TH-63 粒 (Ⅱ-6-2 と共通)	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ、ウリカワ、 オモダカ、ヒル ムシロ、アオミ ドロ。	田植前後土壌処 理した場合、 +15～+25(ノ ビエ2.5Lまで)。 (但し、寒地は) 2Lまで。 ホタルイ、ウリ カワ：発生盛～ 5L。 ヘラオモダカ、 オモダカ：発生 盛～4L。 (但し、 <u>温暖地 西部のオモダ カは発生盛～ 矢じり葉初期。</u>) ミズガヤツリ： 発生盛～6L。 ヒルムシロ：発 生盛～増殖初 期。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。 2) シメトリン混合剤 使用上の注意をまも る。 3) <u>クログワイ防除は クログワイに有効な 前処理剤との組み合 せで使用する。</u>
			寒冷地。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ヘラオモダ カ、ウリカワ、 オモダカ、ミズ ガヤツリ、 <u>クロ グワイ</u> 、ヒルム シロ、ウキクサ、 アオミドロ。				
			温暖地東部の 早期・普通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、オモダカ、				

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 1 ク ロ グ ワ イ 対 象 (つ づ き)	9) TH-63 粒 (つづき)			ウリカワ、ミズ ガヤツリ、クロ グワイ、ヒメホ タルイ、ヒルム シロ、ウキクサ、 アオミドロ。	ヒメホタルイ、 クログワイ：草 丈5～10cm。			
			温暖地西部 以西の早期 ・普通期。	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、 クログワイ、ヒ ルムシロ、 <u>オモ ダカ</u> 。 〔但し、クログ ワイは普通期 のみ。 <u>オモダ カは温暖地西 部の普通期の み</u> 。〕				
	10) SMX粒	< Ⅱ - 5 - 26 参 照 >						
	11) BAS-3510 水和 〔Ⅱ-6-2〕 と共通	茎 葉 処 理 (落 水 散 布)	寒冷地。	一年生非イネ科 雑草、ホタルイ、 ヘラオモダカ、 ウリカワ、オモ ダカ、ミズガヤ ツリ、 <u>クログワ イ</u> 。	田植前後土壌処 理した場合、 一年生非イネ科 雑草：生育期。 ホタルイ： <u>発生 盛～花茎抽出 始期</u> 。 ウリカワ、ミズ ガヤツリ、ヘラ オモダカ、セリ： 発生盛～増殖 中期。 オモダカ：発生 盛～ <u>矢じり葉 初期</u> 。 コウキヤガラ： +30日前後。 <u>クログワイ：草 丈10～30cm</u> 。	g/a 40～ 60	全 土 壌	1) 前処理剤との組み 合せて使用する。 2) 散布は水稻になる べくかからないよう にする。 3) 処理後の灌水は、 48～72時間経過後に 行なう。 4) 処理後2日以内に 降雨が予想される場 合は、使用をさしひ かえる。 5) <u>クログワイ防除は</u> <u>クログワイに有効な</u> <u>前処理剤との組み合</u> <u>せて使用する。また</u> <u>処理期が早いと効果</u> <u>が変動する。</u>
			温暖地東部 の早期・普 通期。	一年生非イネ科 雑草、ホタルイ、 ヘラオモダカ、 ウリカワ、 <u>オモ ダカ</u> 、ミズガヤ ツリ、 <u>クログワ イ</u> 、コウキヤガ ラ。 〔但し、 <u>クログ ワイは普通期 のみ</u> 。〕				
			温暖地西部 の普通期。	一年生非イネ科 雑草、ホタルイ、 ヘラオモダカ、 ウリカワ、オモ				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 1 ク ロ グ ワ イ 対 象 (つ づ き)	11) BAS-3510 水和 (つづき)			ダカ、ミズガヤツリ、 <u>クログワイ</u> 、コウキヤガラ、セリ。				
			暖地の早期・普通期。	一年生非イネ科雑草、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、 <u>オモダカ</u> 、 <u>ミズガヤツリ</u> 、 <u>クログワイ</u> 、コウキヤガラ。 〔但し、ヘラオモダカ、 <u>オモダカ</u> 、 <u>クログワイ</u> は普通期のみ。〕				
象 (つ づ き)	12) MCP・BAS水和 〔Ⅱ-6-4〕と共通	茎葉処理 (灌水・落水散布)	寒地(灌水散布)。	一年生非イネ科雑草、ホタルイ、ヘラオモダカ。	MCP 散布時期に準ずる。 一年生非イネ科雑草：生育期。 ホタルイ：発生揃～4L。 ウリカワ：塊茎形成前。 ヘラオモダカ：発生揃～5L。 ミズガヤツリ：発生揃～8L。 <u>クログワイ：草丈10～30cm.</u> コウキヤガラ：草丈60cm程度。 <u>セリ：生育期。</u>	g/a <u>70～</u> 100	全土壌 〔但し、寒地は砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) <u>クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組み合わせで使用する。また、処理期が早いと効果が変動する。</u>
			寒冷地。	クログワイ、コウキヤガラ、セリ。				
			温暖地東部の普通期。	一年生非イネ科雑草、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、 <u>クログワイ</u> 、 <u>セリ</u> 。				
			温暖地西部の普通期。	クログワイ、コウキヤガラ、セリ。				
			暖地の早期。	コウキヤガラ。				
	13) 2,4 PA・BAS水和	茎葉処理 (落水散布)	温暖地東部の普通期。	一年生非イネ科雑草、ウリカワ。	2,4 PA 散布時期に準ずる。 一年生非イネ科雑草：生育期。 ウリカワ：塊茎	g/a <u>70～</u> 100 〔但し、温暖地	全土壌	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) <u>クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤と組み合わせ</u>
			温暖地西部以西の普通	クログワイ、セリ。				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 1 (つづき)	13) 2,4 PA・ BAS水和 (つづき)		期.		形成前, クログワイ:草 丈10~30cm. セリ:生育期.	東部は 100の み.		て使用する.
Ⅱ 6 2	1) B-3015 S ・MCPB粒	< Ⅱ - 6 - 1 - (7) 参 照 >						
	2) TH-63粒	< Ⅱ - 6 - 1 - (9) 参 照 >						
オ モ ダ カ 対 象	3) SMX粒	< Ⅱ - 5 - 26 参 照 >						
	3) SMX①粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地. 寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, オモダカ. 一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	田植前後土壌処 理した場合, +20~+30 (ノ ビエ2Lまで). 〔但し, 寒冷地 は+20~+25 (ノビエ2L まで). ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤ ツリ:発生始~ 3L. ヘラオモダカ: 発生始~4L. オモダカ:発生 盛~6L.	g/a 300~ 400 〔但し, 〕 寒地は 300の み.	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下). 〔但し, 〕 砂壤土 は寒冷 地のみ.	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 使用上の注意をまも る. 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける. 4) ミズガヤツリの場合 はミズガヤツリに 有効な土壌処理剤と 組み合せて使用する.
	4) BAS- 3510粒	< Ⅱ - 5 - 21 参 照 >						
	5) BAS- 3510水和	< Ⅱ - 6 - (11) 参 照 >						
Ⅱ 6 3 セ リ 対 象	1) HOK-05 粒 (HOK-05 B)	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒冷地. 温暖地東部 の普通期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ. 一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, セリ.	田植前後土壌処 理した場合, +20~+25 (ノ ビエ2Lまで). 〔但し, 暖地の 普通期は+16 ~+25, 寒冷 地はイネ5L 期以降. ホタルイ:発生 始~2L.	g/a 300~ 400	埴土~ 埴土 (2cm/日 以下). 砂壤土 (1cm/日 以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける.

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 3 セ リ 対 象	1) HOK-05 粒 (HOK-05 B) (つづき)		温暖地西部 以西の普通 期, 暖地の 早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.	ウリカワ, ヘラ オモダカ: 発生 始~5 L. セリ: 増殖初期 まで.			
	2) KH-199 粒		< Ⅱ - 5 - 14 参 照 >					
	3) SMX 粒		< Ⅱ - 5 - 26 参 照 >					
Ⅱ 6 4 コ ウ キ ヤ カ ラ 対 象	1) MCP・ BAS水和		< Ⅱ - 6 - 1 - (12) 参 照 >					
Ⅱ 6 5 ヒ ル ム シ ロ 対 象	1) シメトリ ン・MCPB 粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ.	田植前後土壌処 理した場合, +20~+25 (ノ ビエ 1.5 L まで).	g/a 300~ 400 〔但し,〕 寒地・ 暖地は 300 の み.	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下). 砂壤土 (1cm/日 以下). 〔但し,〕 暖地早 期は埴 土(1 cm/日 以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は葉害発生 の危険性があるので 使用はさける.
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ. 〔但し, ウリカ ワは寒冷地南 部のみ.〕	〔但し, 寒地は〕 +20~+30, 寒冷地以北は イネ 5 L 期以 降. ホタルイ: 発生 始~2 L. ウリカワ: 発生 揃~5 L. 〔但し, 暖地普 通期は 3~8 L.〕			
			温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 および暖地 の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヒルムシロ. 〔但し, ホタル イは温暖地西 部の普通期の み, ヒルムシ ロは温暖地東 部の普通期の み.〕	ヘラオモダカ: 発生始~4 L ヒルムシロ: 発 生後~4 L.			
	1') シメトリ ン・MCPB 2.3粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, <u>ヒルムシロ</u> .	田植前後土壌処 理した場合, +20~+30 (ノ ビエ 1.5 L まで).	g/a 300~ 400 〔但し,〕	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 前処理剤との組み 合せて使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 5 ヒ ル ム シ ロ 対 象	1') シメトリ ン・MCPB 2.3粒 (つづき)		寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ.	〔但し, 寒冷地 以北はイネ5 L期以降.〕 ホタルイ: 発生 始~2L. ウリカワ: 発生 揃~5L. 〔但し, 暖地は 発生揃~7L.〕 ヘラオモダカ: 発生始~4L. ヒルムシロ: 発 生後~4L.	寒地・ 暖地は 300の み.	〔但し, 寒冷地 は砂壌 土~埴 土(2 cm/日 以下).〕	もる. 3) 低温時は被害発生 の危険性があるので 使用はさける.
			温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ. 〔但し, ホタル イは暖地を除 く.〕				
Ⅲ 1 湛 水 直 播	1) MY-93 粒	土 壌 処 理	温暖地以西.	ノビエ.	+3~+7 (ノビ エ1.5Lまで).	g/a 300~ 400	壤土~ 埴土 (1cm/日 以下).	1) ノビエ優占圃場で 使用する.
	2) SW-751 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+0~+7	g/a 300~ 400 〔但し, 400は 播種前 のみ.〕	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	
			寒冷地.	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.	+0~+3			
Ⅲ 2 乾 田 直 播	1) MY-93D 乳	土 壌 処 理	温暖地西部 以西.	一年生雑草.	+10~ノビエ2.5 Lまで(入水前).	ml/a 75~100	壤土~ 埴土	1) DCPA剤の使用上 の注意をまもる.
	2) 3) BAS-3510 水和	茎 葉 処 理	寒冷地南部 以西.	ミズガヤツリ, 非イネ科一年生 雑草.	入水前および入 水後, ミズガヤ ツリ2~7L. 〔但し, 寒冷地 南部は入水前 を除く.〕	g/a 40~60 〔但し, 寒 冷地南 部は60 ~120.〕	砂壌土~ 埴土 (1.5cm /日以下).	1) DCPA剤と10日以 内の近接散布はさけ る.
Ⅳ 畦 畔	2) Mon-39液	茎 葉 処 理	全域.	全草種.	雑草生育期.	ml/a 一年生: 25~50 多年生: 75~100.	全土壌	1) ノリ面散布はさけ る. 2) 稲体にかからない ようにする. 3) 流水による薬害の おそれをなくする. 4) 年1回程度の使用 にとどめる.

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅳ 畦 畔 (つ づ き)	2) <u>Mon-39液</u>	茎葉塗布処理	全域.	全草種. 〔但し、寒冷地 以北はスギナ を除く.〕	雑草生育期.	3～6倍 液を1～ 2回往復 塗布.	全 土 壌	
	3) HW-45C 粒	茎葉 処理	全域.	全草種.	雑草生育期：草 丈10～20cm.	g/a 1,500～ 2,500	全 土 壌 〔但し、 砂質土 壌地帯 は除く.〕	1) ノリ面散布はさける。 2) 稲体にかからない ようにする。 3) 流水による薬害の おそれをなくする。
	4) NKG-1 水和	茎葉 処理	全域.	全草種.	雑草生育初期～ 中期：草丈10～ 30 cm. 〔但し、 <u>寒地は</u> <u>移植前</u> .〕	g/a 200～ 300	全 土 壌 〔但し、 砂質土 壌地帯 は除く.〕	1) ノリ面散布はさける。 2) 稲体にかからない ようにする。 3) 流水による薬害の おそれをなくする。
	5) <u>MW-801 液</u>	茎葉 処理	寒冷地以西.	全草種.	雑草生育初期～ 中期：草丈10～ 30 cm.	ml/a 50～ 100	全 土 壌	1) ノリ面散布はさける。 2) 稲体にかからない ようにする。 3) 流水による薬害の おそれをなくする。
	6) SSH-43 粒	茎葉・ 土壌処理	寒冷地、温 暖地西部.	全草種.	雑草生育初期： 草丈10～20 cm.	g/a 寒冷地： 800～ 1,200. 温暖地西 部：1,000 ～1,200.	全 土 壌 〔但し、 砂質土 壌地帯 は除く.〕	1) ノリ面散布はさけ る。 2) 稲体にかからない ようにする。 3) 流水による薬害の おそれをなくする。
Ⅴ 耕 起 前	1) AH-501 ①液	茎葉 処理	寒冷地以西.	一年生雑草.	寒冷地：耕起前 20～12日。 温暖地以西：耕 起前15～7日.	m/a 70～ 100	全 土 壌	1) パラコート剤に準 ずる。 2) 周辺の作物に飛散 しないように注意する。
	2) <u>MW-801 液</u>	茎葉 処理	温暖地西部 以西.	一年生雑草、キ シュウスズメノ ヒエ。 〔但し、キシュ ウスズメノヒ エは暖地のみ.〕	一年生雑草：耕 起前30～15日。 キシュウスズメ ノヒエ：耕起前 30～25日.	m/a 一年生： 50～100 キシュウ スズメノ ヒエ：100.	壤土～ 埴土 〔但し、 暖地は 埴壤土 ～埴土.〕	1) 周辺の作物に飛散 しないように注意す る。
Ⅵ ク リ ク 雑 草	1) <u>Mon-39 液</u>	茎葉 処理	暖地.	キシュウスズメ ノヒエ、ホテイ アオイ.	10月下旬	m/a 100～ 240		1) 周辺の作物に飛散 しないように注意す る。

注：1) アンダーライン(実線)は、本年度拡大された部分(なお薬剤名のアンダーラインは本年度はじめて使用基準の作成されたもの)。

2) アンダーライン(点線)はその一部が拡大されたもの。

第4表 昭和55年度 体系是正用実用化除草剤使用基準一覧

区分	薬 剤 名 (有効成分)	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
体系是正	1) CG・MK 粒 〔CG-113 2% MK-129 4%〕	土 壌 処 理	寒地、寒冷地。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ。	+3～+10(ノビエ1.5Lまで)。 ホタルイ：2Lまで。 ヘラオモダカ：2Lまで。	g/a 300	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。	
	2) CG・SW 粒 〔CG-113 2% ピラゾレート 8%〕	土 壌 処 理	全域(普通期)。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。	-3,+3～+10(ノビエ1.5Lまで)。 〔但し、温暖地西部以西はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ、ミズガヤツリ：2Lまで。 ウリカワ、ヘラオモダカ：3Lまで。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。	
	3) MT・CG 粒 〔ナプロアエ リド 10% CG-113 2%〕	土 壌 処 理	全域(普通期)。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤツリは温暖地以西のみ。〕	+5～+10(ノビエ1.5Lまで)。 〔但し、温暖地西部以西はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ：2Lまで。 ミズガヤツリ：発生始まで。	g/a 300～ 400	壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。	
	4) SB-77粒 〔ピラゾレート 7% ベンチオカ ーブ 7%〕	土 壌 処 理	寒地、寒冷地、温暖地東部(普通期)。	一年生雑草、マツバイ、ヘラオモダカ、ウリカワ。 〔但し、ヘラオモダカは温暖地東部を除く。〕	+3～+10(ノビエ1.5Lまで)。 ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ：2Lまで。	g/a 300	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。	
			温暖地西部以西(普通期)。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ				
	5) MS-358 粒 〔ブタクロール 3.5% ピラゾレート〕	土 壌 処 理	全域(普通期)。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ。	+3～+10(ノビエ1.5Lまで)。 〔但し、温暖地西部以西はノビエ2Lまで。〕	g/a 300	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。	1) ブタクロール粒剤に準ずる。

区分	薬 剤 名 (有効成分)	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
体系 は 正 (つづき)	5) MS-358 粒 (つづき) 8%				ホタルイ, ヘラ オモダカ, ミズ ガヤツリ: 2L まで。 ウリカワ: 3L まで。			
	6) TH-63粒 ジメタメ リン 1.1% ピペロホス 4.4% ペンタゾン 10%	茎葉・土 壌処 理	寒地。	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ	+8~ノビエ3L。 〔但し, 寒地は +7~2L, 寒冷地は+10 ~2.5L。〕	g/a 300	壤土~ 埴土 (2cm/日 以下)。	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる。
			寒冷地。	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, ミズガヤツリ。	ホタルイ: 発生 始~5L。 ヘラオモダカ: 発生盛~4L。 ウリカワ: 発生 盛~5L。 ミズガヤツリ: 発生盛~6L。			
			温暖地以西 の早期・普 通期。	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ。				

注: 本年度供試薬剤はすべて「実・継」と判定された。

第5表 昭和55年度 ハトムギ関係実用化除草剤使用基準一覧

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
(1) 移植	1) X-52粒	土 壌 処 理	寒冷地以西	一年生雑草, マ ツバイ。	+3~+7 (ノ ビエ1Lまで)。	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 〔極端な 漏水田 は除く。〕	
栽培	2) CNP粒	土 壌 処 理	寒冷地, 温 暖地東部。	一年生雑草, マ ツバイ。	-3~+3 (ノ ビエ1Lまで)。	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 〔極端な 漏水田 は除く。〕	
	3) SW-751 粒	土 壌 処 理	温暖地西部 以西	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ。	+2~+5 (ノ ビエ1Lまで)。 ホタルイ: 発生 始まで。 ウリカワ: 2L まで。	g/a 300	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下)。	

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
(2) 乾田直播栽培	1) B-3015・ プロメトリ ン乳	土 壌 処 理	寒冷地以西	一年生雑草	播種後～出芽前	ml/a 50	壤土～ 埴土	1) 出芽直前の使用は さける。 2) 散布直後に降雨の 予想される時は使用 をさける。

昭和55年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和55年12月10～11日、植調会館会議室（東京都台東区台東1-26-6）において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験7剤、作用性試験19剤、適用性試験53剤（のべ試験点数332点、大豆116点、小豆20点、菜豆13点、落花生18点、とうもろこし45点、かんしょ20点、ばれいしょ45点、てんさい23点、こんにゃく4点、さとうきび28点）、転換畑大豆用除草剤試験8剤および畑地における粒剤の効果向上に関する試験（細粒剤試験）2剤であった。

検討の結果、適用性試験の判定結果は第1表の通りであり、実用化可能と判定された薬剤別の使用基準は第2表の通りである。

転換畑(大豆)用除草剤試験については、昭和53年度から3年間継続の連絡試験を行ない、各年次ごとの成績概要については中山委員（昭和53年）、宮原委員（昭和54年）および高林委員（昭和55年）によってとりまとめられている（昭和55年度転作(大豆)関係除草剤試験成績概要については、本誌2頁を参照）。

これらの結果、2カ年以上の試験歴のある薬剤で、適用性が高いと判断されたものについて、今回、第3表の通り使用基準を作成した。特に転換畑(大豆)用除草剤の使用にあたっては、従来畑作の使用基準の注意事項の他に“土壌水分が高く土壌が大きいので、碎土・覆土を特にていねいに行なう必要がある”を加える。

畑地における粒剤の効果向上に関する試験については、農事試験場、東北農業試験場、九州農業試験場および植調研究所において、B-3015・P、CG-119・Pの両細粒剤を供試して基礎試験を実施した。検討の結果、両剤とも除草効果は、各種変動条件においても高く安定しており、薬害も認められなかった。また、処理薬量についても、手動散粒機での5kg/a処理は、均一散布が可能であることが示され、両剤とも畑地用除草剤として適用性が高いことが結論された。

なお、昭和56年度の試験においては、検討場所および薬剤をふやし基礎試験を引き続き行なうとともに、適用性が高いと判断された薬剤については、適用性試験に移し検討していく予定である。

第1表 昭和55年度 畑作関係除草剤適用性試験成績結果判定表

区 分	実	実 ・ 継	継	中 止
1) 大 豆	アラクロール乳+リニ ュロン水和(現混), ア ラクロール乳+DNBP 液(現混), アラクロー ル乳.	CG-119乳, NP-55乳, ADBA液, ジクワット液, MB-206粒, MCC粒, SL -236乳, BI-883乳.	D-792, D-801, K-253水和, K-503水和(?), RH-62乳, LP -ガス除草(?), TAW-19水和, G-315水和, HSW-802乳, MSR -794水和, NTN-70水和, SR -793水和.	トリフルラリ ン乳, トリフ ルラリン乳+ プロメトリン 水和(現混).
移植大豆	B-3015・P.			
2) 小 豆	HSW-761水和.	NP-55乳, ADBA液.	HSW-802乳, HSW-803水和, NTN-70水和, SL-236乳.	
3) 菜 豆	S-28乳, NP-48(Na) 水溶		NP-55乳, ADBA液, HSW- 802乳, HSW-803水和, SL- 236乳.	
4) 落 花 生	ADBA液.	NP-55乳, アラクロール 乳, S-28・U粒, SL-236 乳.		
5) とうもろこし	アラクロール乳.	CG-119乳, SSH-41水 和, CG-123フロアブル.	LP-ガス除草(?), トリフルラリ ン乳, トリフルラリン粒, HSW -802乳, HSW-804水和, Ro- 40粒, SAP・プロメトリン乳, SSH-55乳.	
6) 甘 し ょ		NP-55乳, アラクロール 乳, SL-236乳.	S-28乳, ジフェナミド粒.	
7) ばれいしょ	ジクワット液.	トリフルラリン粒, AH- 501 ㊟液, AH-502水和, ANK-553乳, B-3015・ P粒.	S-28乳, アラクロール乳, NK -049水和(?), Ro-40粒・乳, SAP・プロメトリン乳.	
秋植えばれ いしょ		NP-48(Na)水溶, SL -236乳.		
8) てんさい	NP-48(Na)水溶.	BJL-119+展着剤(現混)	HOK-39乳, NP-55乳, アラク ロール乳, B JL-126(現混), Ro -40粒, SL-236乳.	フェンディメ ンタル水和.
9) こんにゃく			G-315水和.	
10) さとうきび	B-3015・P粒.	G-315水和, HW-920微 粒, SSH-43粒(1%), SSH-43水和.	K-253水和, K-503水和, K -666水和.	

第2表 昭和55年度 畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	CG-119	乳	実・継	土 壤	播 種 後	m/ 20～40	全 土 壤	寒 冷 地 寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。
							火山灰土	温 暖 地	
						20～30	火山灰土	暖 地	
	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 15～20	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。 単用処理または 体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	アラクロール + リニュロン	乳 水和	実	土 壤	播 種 後	20～40 m/ +15 g	全 土 壤	寒 冷 地 寒 冷 地	1) 単剤の使用 基準を守る。
						30～40 m/ +15 g	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	アラクロール + DNBP	乳 液	実	土 壤	出 芽 前	30～40 m/ +40～60 m/	全 土 壤	寒 地	1) 単剤の使用 基準を守る。
	アラクロール	乳	実	土 壤	播 種 後	30～60 m/ 〔但し、寒 地は30～ 40m/。〕	全 土 壤	寒 冷 地 寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。
							火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	ADBA	液	実・継	土 壤	播 種 後	m/ 100～150	火山灰土	寒 冷 地 温暖地東部	1) ツユクサに 劣る。
							全 土 壤	暖 地	
	ジクワット	液	実・継	茎 葉	播種後30 ～35日 (大豆本 葉5～6 葉期)	m/ 30～50	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地	1) 大豆の茎葉 に薬液がかか らないように 散布する
	MB-206	粒	実・継	土 壤	播 種 後	g 400～600	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	MCC	粒	実・継	土 壌	播 種 後	g 400～600	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	<u>SL-236</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	ml 7.5～15	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理又は 体系処理：広 葉雑草に有効 な既登録土壌 処理剤を使用 する。
	<u>BI-883</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 1～4 葉期	ml 10～20	全 土 壤	寒 冷 地	同 上
移植大豆	<u>B-3015・P</u>	粒	実	土 壌	移植後雑 草発生前	g 500～600	全 土 壤	寒 冷 地	1) 葉になるべ くかからない ように散布。 2) 葉に水分が 付着している 場合は散布し ない。 3) 移植後の土 寄せはていね いに行なう。
2) 小 豆	<u>NP-55</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	ml 15～20	沖積土壌	寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	ADBA	液	実・継	土 壌	播 種 後	ml 100～150	火山灰土	寒 冷 地	1) ツユクサに 劣る。
	<u>HSW-761</u>	水和	実	土 壌	出 芽 前	g 30～40	全 土 壤	寒 地	1) 乾燥条件下 ではイネ科雑 草に効果が劣 る。
3) 菜 豆	S-28	乳	実	土 壌	出 芽 前	ml 30～40	全 土 壤	寒 地	1) 特に砕土を 良好にする。

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
3) 菜 豆 (つづき)	S-28 (つづき)								2) 土壌の乾燥時には効果が劣る。 3) 条件により菜害の恐れがあるので注意する。 ・大正金時。 ・姫手亡。
	NP-48 (Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科雑草 2~4 葉期。	m/ 10~15	全 土 壌	寒 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。 ・大正金時。 ・姫手亡。
4) 落花生	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑草 3~5 葉期	m/ 15~20	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 単用処理または体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。
	アラクロール	乳	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 30~60	火山灰土	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。
	ADBA	液	実	土 壌	播 種 後	m/ 100~150	火山灰土	温 暖 地 暖 地	1) 土壌の過乾・過湿条件下での使用はひかえる。
	S-28・U	粒	実・継	土 壌	播 種 後	g 500~700	全 土 壌 火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑草 3~5 葉期	m/ 7.5~15	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 単用処理また

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
4) 落花生 (つづき)	SL-236 (つづき)								は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
5) とうも ろこし	CG-119	乳	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 20~40	全 土 壌	寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
							火山灰土	温 暖 地	
						20~30	火山灰土	暖 地	
	SSH-41	水和	実・継	土 壌	播 種 後	10~20 g	全 土 壌	寒 冷 地	
						10~15	火山灰土	温 暖 地	
	アラクロール	乳	実	土 壌	播 種 後	m/ 20~30	火山灰土 沖積壤土 ~埴土	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
							全 土 壌	寒 冷 地	
						30~60	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	CG-123	フロ アブ ル	実・継	土 壌	播 種 後	20~40 g	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	
							火山灰土	温 暖 地	
						10~30	火山灰土	暖 地	
6) さとう きび	B-3015・P	粒	実	土 壌	植 付 後	g 400~600	全 土 壌 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯は除く)	・ 春 植.
		粒	実	土 壌	植 付 後	500~600	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	・ 夏 植.
		粒	実・継	土 壌	中 耕 後	500~600	全 土 壌 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯は除く)	・ 株出し.
	G-315	水和	実・継	土 壌	植 付 後	10~20 g	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
6) さとう きび (つづき)	G-315 (つづき)	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 夏 植.
		水和	実・継	土 壤	中耕後ま たは排土 後	10~20	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 株出し.
	HW-920	微粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 500~1000	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.
		微粒	実・継	土 壤	植 付 後	750~1000	火山灰土	暖 地	・ 夏 植.
		微粒	実・継	土 壤	中 耕 後	500~1000	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 株出し.
	SSH-43 (4%)	粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 200~300	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 春 植.
	SSH-43 (1%)	粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 600~800	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 春 植., ・ 夏 植.
					中耕後又 は排土後	600~800	同 上	暖 地	・ 株出し.
	SSH-43	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 夏 植.
7) ばれい しょ	トリフルラン	粒	実・継	土 壤	植付後~ 雑草発生 前	g 400~500	沖積土壌	寒 冷 地	
							火山灰土	温暖地東部	
	AH-501㊦	液	実・継	茎 葉	萌 芽 前	30~40 m/	全 土 壤	寒 地	
						30~70		寒 冷 地	
					茎葉黄変 期	30~100	全 土 壤	寒 冷 地	
						70~100		温暖地東部	
	AH-502	水和	実・継	茎葉兼土 壤	萌 芽 前	20~40g 〔但し、寒 地は20~ 30g〕	全 土 壤	寒 地 寒 冷 地 温暖地東部	

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7) ばれい しよ (つづき)	ANK-553	乳	実・継	土 壤	植付後～ 萌芽前	m/ 20～30	全 土 壤	寒 地	
							火山灰土	温 暖 地	
						20～40	火山灰土	寒 冷 地	
							全 土 壤	暖 地	
	B-3015・P	粒	実・継	土 壤	植付後～ 雑草発生 前	500～600g	火山灰土	寒 冷 地	
						400～600	火山灰土	温 暖 地	
							全 土 壤	暖 地	
	ジクワット	液	実	茎 葉	萌 芽 前	10～20 m/	全 土 壤	寒 地	
(秋植ばれ いしよ)	NP-48 (Na)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～15	全 土 壤	暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～15	全 土 壤	暖 地	同 上
8) かんしよ	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 15～20	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	同 上
	アラクロール	乳	実・継	土 壤	挿 苗 後	m/ 30～60	火山灰土	暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	挿 苗 後 イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～20	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草に有 効な既登録土 壌処理剤を使 用する。

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
9) てんさい	BJL-119+ 展着剤		実・継	茎 葉	雑草発生 始期	40～60 g + 10 m/	全 土 壤	寒 地	1) 指定展着剤 を使用する。 ・移植・直播。
	NP-48(Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科雑 草 2～4 葉期	m/ 10～15	全 土 壤	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草に有 効な既登録土 壌処理剤を使 用する。 2) 耕起に際し ルートマット の反転埋没を 完全にする。 ・移植・直播。

注：1) アンダーライン(実線)は、本年度拡大された部分(なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて使用基準の作成されたもの)。

2) アンダーライン(点線)は、その1部が拡大されたもの。

第3表 転換畑(大豆)用除草剤使用基準一覧

薬 剤 名	処理法	適用地域	処 理 時 期	使用量 /a	適 用 土 壌	使用上の注意
1. アラクロール乳	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	45～60 m/	沖積 埴壌土	1) イネ科雑草優占圃 場で使用する。 2) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特に いねいに行なう必要 がある。
		温 暖 地		30～60	沖積 壤 土	
		暖 地			沖積 砂壌土	
2. B-3015・P粒	土 壤	寒 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600g	全 土 壤	1) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特に いねいに行なう必要 がある。
		寒 冷 地		500～600	沖積 埴土～埴壌土	
		暖 地			沖積 砂壌土	
3. CG-119乳	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 20～40	火 山 灰 土	1) イネ科雑草優占圃 場で使用する。 2) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特に いねいに行なう必要 がある。
		温 暖 地			沖積 埴土～埴土	
		暖 地		20～30	沖積 砂壌土	
4. NP-48水溶	茎 葉	全 域	イネ科雑草 3～5葉期	10～15 g	全 土 壤	1) イネ科優占圃場で 使用する。 単用処理または体系

薬 剤 名	処理法	適用地域	処理時期	使用量 /a	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
4. NP-48 水溶 (つ づ き)						処理：広葉雑草に有効な既登録土壌処理剤を使用する。 2) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。
5. SL-236 乳	茎 葉	全 域	イネ科雑草 3～5 葉期 〔但し、寒地は〕 4 葉期まで〕	m/ 10～20	全 土 壤	
6. トリフルラリン乳 +リニュロン水和 (現地混用)	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 15～25 + g 10～15	火 山 灰 土 沖積 壤土～埴埴土	1) 単剤の使用基準を守る。 2) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。
		温 暖 地			沖積 壤土～埴土	
		暖 地			沖積 砂壤土～埴土	
7. NIP 乳	土 壤	温 暖 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 100～120	沖積 壤土～埴土	1) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。

昭和55年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和55年12月12日(金)、国鉄労働会館(東京都千代田区丸の内1-11-4)において開催された。その結果の概要は、次の通りである。

水稻作関係生育調節剤試験は、作用性 7 剤(15点)、適用性 7 剤(38点)について実施された。このうち、新規薬剤は倒伏防止および育苗時の徒長・老化防止をねらいとする BAS-106 水和剤と PR-112 粒剤、低温条件下での登熟歩合の向上についての SZ-8027 液剤、籾の乾燥効果についての R-452 乳剤の 4 剤で、それぞれ有望と考えられるがさらに作用性の明確化あるいは適用条件の検討が必要とされた。タチガ

レン粉・液剤は、前年度通りの使用基準で実用性が確認され、BA 液剤は温暖地への適用地域拡大が可能となった。また、NK-191 粉剤および GF-030 液剤は、さらに適用条件の検討が必要と判断された。

一方、畑作関係では作用性 1 剤(1点)、適用性 3 剤(6点)の試験が行なわれた。C-MH 液剤については、馬鈴薯の貯蔵中の萌芽抑制について実用化可能と判定され、使用基準が作成されたが、CaCO₃ 水和剤(馬鈴薯)と GF-030 液剤(てんさい)は効果が不十分で、継続?と判定された。

なお、薬剤別の判定結果および実用化薬剤の使用基準は、次表の通りである。

昭和 55 年度 水稲・畑作関係生育調節剤判定結果および使用基準

(1) 水 稲 関 係

薬 剤 名	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1. アビオンC乳	パラフィン 36% 脂肪酸他 64%	・倒伏防止効果。 〔作用性〕	継?		・効果不十分。 ・試験条件の明確化必要。
2. BAS-106W 水和	成分未公開 5%	・倒伏防止効果。 〔作用性〕 ・健苗育成、とくに徒長防止および老化防止効果。〔作用性〕	継		・有望、初年目。作用性の明確化。
3. タチガレン粉 →タチガレン液	ヒドロキシイソキサゾール 粉：4% 液：30%	・粉剤と液剤の組み合わせ処理による健苗育成、とくに老化防止および活着促進効果。〔適用性〕 ・粉剤と液剤の組み合わせ処理による健苗育成、とくにムレ苗防止効果。〔適用性〕	実・継	・粉剤と液剤の組み合わせ使用。 ・粉剤(4%)：箱当り6～12gを播種前に床土に混入。 液剤(30%)：500倍液を箱当り500mlを1～2回灌注(播種後2週間目位および移植前2～3日)。 ・適用地域：全域	・粉剤の薬量増加は苗劣化するおそれがある(液剤の灌注処理を励行する)。 ・徒長防止効果については継続検討。
4. タチガレン液	ヒドロキシイソキサゾール 30%	・稲登熟期の低温条件下における登熟歩合の向上。〔作用性〕 〔適用性〕	実・継	・出穂直前に500～1,000倍液を10a当り150l処理。 ・適用地域：温暖地東部以北。	・作用性の明確化、効果の変動要因の解明。
5. PR-112 粒	成分未公開 0.2, 0.4, 0.8%	・徒長防止、老化防止、根伸長促進、活着促進効果。〔作用性〕 ・倒伏防止効果 〔作用性〕	継		・有望、初年目。作用性の明確化。
6. NK-191 粉	成分未公開 10%	・健苗育成、初期生育の調節(根伸長促進、徒長防止効果)。 〔適用性〕	継		・効果は高く有望であるが、成分未公開(根上り対策を考慮)。
7. B A 液	ベンジルアミノプリン 3%	・健苗育成(とくに老化防止、活着促進、苗質向上効果)。 〔適用性〕	実	・イネ1～1.5葉期に10～20ppm液を箱当り50ml処理。 ・適用地域：全域。	・温暖地の適用地域拡大可能。
8. GF-030 液 (グリーンナー)	マイクロクリスタリンワックス 10%	・ムレ苗防止効果、ムレ苗発生後の回復効果、苗質向上。 〔適用性〕	継		・適用条件の検討(処理時期、被害)。

薬 剤 名	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
9. SZ-8027 液	成分未公開 17%	・稲登熟期の低温条件下における登熟歩合向上。 〔作用性〕	継		・初年目、成分未公開、作用性の明確化。
10. R-452 乳	2,3-ジハイドロ -5,6-ジメチル -1,4-ジチン -1,1,4,4-テトラオキシド 24%	・稲刈取時の初乾乾燥効果。 〔作用性〕 〔適用性〕	継		・有望、適用条件の検討（処理時期、使用量）

(2) 畑 作 関 係

薬 剤 名	有効成分・含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1. CaCO ₃ 水和 (クレフノン)	炭酸カルシウム 95%	・馬鈴薯の徒長防止による収量増加、デンプン価向上効果。 〔作用性〕 〔適用性〕	継?		・効果不十分。
2. C-MH 液	マレイン酸ヒドラジドコリン塩 39% (MHとして20%)	・馬鈴薯の収穫前茎葉散布による貯蔵中の萌芽抑制効果。	実・継	・馬鈴薯の収穫前2～3週間に80～120倍液を茎葉散布。	・最適濃度、処理時期についてはさらに検討。
3. GF-030 液 (グリーンナー)	マイクロクリスタリンワックス 10%	・移植てん菜の活着促進、初期生育促進効果。	継?		・効果不十分。

編 集 後 記

冬ごもりをしていた虫が、あまりの暖かさにつられて地上に這いだしてみたら、日本列島は本年最低気温を記録する寒気団に覆われ、又もや冬ごもり……したかと思うと春一番が吹きあれる。女心と秋の空……いや春の空かも知れぬが、とにかく春は天候・気温ともに変化がはげしい。春を告げる雑草は、はや緑で裸の地面に衣を着させつつあるが、経済界は予想以上の不況が長びき、金属・繊維・パルプなど、在庫調整が当分続きそうで、何時回復するのか目処さえ立たないという。第二次石油ショックを円高によって吸収したまではよかったが、逆に値下

がりするので大慌て……これからの農業は、経済界の二の舞いを繰り返してはなるまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03) 832-4188(代)

昭和56年3月発行

植調第14巻第12号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03) 833-1821番(代)

実力ある 水田中期除草剤



●水田の中期除草に アビロサンはスイス国、チバガイギー・リミテッドの登録商標

アビロサン[®]粒剤

●広範囲の水田雑草に効果がきわめて優れた、実力のある中期除草剤です。

●水田雑草の総合防除に

ワイダー[®]粒剤



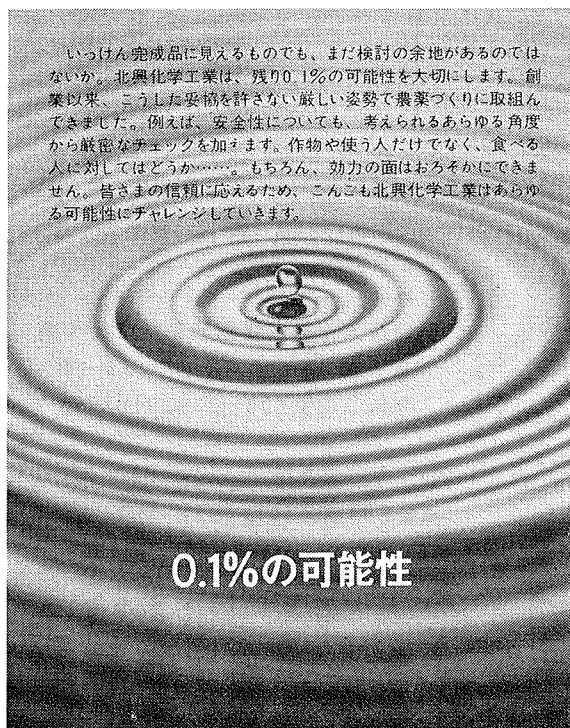
●1年生雑草と多年生雑草を同時に防除できる、水田雑草の総合防除剤です。

*アビロサン粒剤・ワイダー粒剤ともに、低温時に使用しても薬害の心配がなく安全です。

アビロサン・ワイダー普及会

武田薬品工業(株)・石原産業(株)
日本チバガイギー・BASFジャパン

いっぺん完成品に見えるものでも、まだ検討の余地があるのではないか。北興化学工業は、残り0.1%の可能性を大切にします。創業以来、こうした妥協を許さない厳しい姿勢で農業づくりに取り組んできました。例えば、安全性についても、考えられるあらゆる角度から厳密なチェックを加えます。作物や使う人だけでなく、食べる人に対してはどうか……。もちろん、効力の面はおろそかにできません。皆さまの信頼に応えるため、これからも北興化学工業はあらゆる可能性にチャレンジしていきます。



0.1%の可能性

容器のまま田植前に散布できる
水田用除草剤
ホクコー

ロンスター[®]乳剤

ヒエに抜群の効果
ホタルイ、ミズガヤツリにも卓効！
水田の初期除草剤

ホクコー

マーシェット[®]粒剤5

体系除草に(ウリカワにも)

ホクコー

グラキール[®]粒剤 1.5



取扱い
農協・経済連・全農



北興化学工業株式会社
〒103 東京都中央区日本橋本石町4-2
支店：札幌・東京・名古屋・大阪・福岡

お近くの農協でお求めください。

稲作の雑草防除に

すぐれた日産の農薬

容器のまま代かき時に散布できる水田除草剤

ロンスター[®] 乳剤

広範囲の雑草に効く水田新除草剤

デルカット[®] 乳剤

水田の多年生雑草専門除草剤

グラスミン[®] DM
粒剤・水和剤

水田広葉・多年生雑草防除と水稲の倒伏防止などに

2,4-D[®], MCP

ウリカワ専用除草剤

ウリベスト[®] 粒剤

多年生雑草にも効く中期除草剤

日産スエッグ[®] M粒剤

★ 日産化学

ひときわ冴えた効きめが自慢



日本化薬株式会社

〒100 東京都千代田区丸の内1-2-1

な〜んと、欲張った

◆ 水田の1年生、多年生雑草同時防除剤

パサグランSM[®] 粒剤

([®])=西ドイツ・BASF社登録商標

◎初期除草剤との体系使用で1年生雑草およびウリカワ、ホタルイ、ミズガヤツリなどの多年生雑草を同時に防除する。

◎湛水散布で高い効果。

◎散布適期幅が広く、長期間雑草をおさえる。

◎イネに対して安全。

◆ 水田用中期除草剤

パウナックスM[®] 粒剤

◎初期除草剤との体系使用で1年生雑草および多年生雑草の同時防除に高い効果を示す。

新発売

雑草の息の根を止める

みかん園・桑園・水田畦畔・

休耕田・水田(耕起前)に

新しい除草剤

ラウンドアップは……

- 枯らした雑草の再生なし＝雑草の葉から入って根まで枯します。
- 有用植物には安全＝地面に落ちると土に吸着され、有用植物の根から吸収されません。
- 連用しても土を汚さない＝土の中の微生物によって炭酸ガス、水などの安全な自然物に分解されます。
- あらゆる雑草に有効＝非選択性ですから使いわけの必要はありません。
- 取扱いが楽で安心＝低毒性の安全物質です。

ラウンドアップ研究会 クミアイ化学工業・三共

事務局 日本モンサント株式会社 農業部

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.03-287-1251

ラウンドアップ®

®: 米国モンサント社登録商標

「まっ先にくまーシエツト」 とご指導ください。



ヒエ、ホタルイ、ミズガヤツリに抜群の効果を発揮します。

●使用時期＝田植前6日から田植後7日以内の雑草発生前に必ず散布してください。

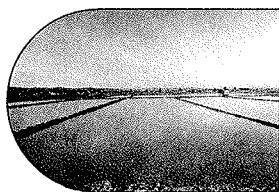
6日前

3日前

田植

3日後

7日以内



└── 処理適期 ─┘

└── 処理適期 ─┘

●成苗移植の場合、田植前3日から田植後7日以内に散布してください。

田植後7日以内に散布する



マーシェット® 粒剤

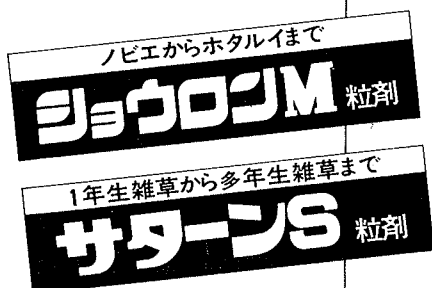
⑧米国モンサント社登録商標

マーシェット普及会
三共(株) 日本農薬(株) 北興化学工業(株)

事務局 日本モンサント株式会社 農薬部
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.03-287-1251


 自然に学び自然を守る
クミアイ化学
 農協・経済連・全農
 ■お問い合わせ…東京都台東区池之端1-4-26

適期
 適量
 よいコンビ



田んぼの雑草防除
 は確かな薬剤をし
 っかり選び上手に
 組み合わせればそ
 れほど難しくはあ
 りません。

マメット® 粒剤・マメットSM粒剤を 安全にご使用いただくために———

最近、水田に散布された除草剤が、となり合った野菜畑（特にウリ類・ピーマ
 ン・大豆など）に影響を及ぼすという問題が発生しておりますので、野菜畑に
 隣接した水田でのマメット粒剤・マメットSM粒剤の使用はさけるようご指導
 願います。

マメット剤の魚類に対する事故防止にあたり、行政機関、指導機関、漁業関係者、
 関係団体の協力をえて、自主規制に関する諸対策を実施しております。

お蔭様でこの対策が全国的に浸透し、本剤に起因すると考えられる魚類の事故は殆
 んどみられなくなりました。

今後共、より一層の安全対策を徹底するため、各関係機関の指導のもとに、系統
 農協と協力し、事故防止に万全を期しておりますので、本剤の安全使用に対す
 るご協力をお願い申し上げます。

——— **モリネット普及会** ———